

CORONA

密閉式石油ストーブ

取扱説明書

〈保証書付〉保証書は裏表紙に印刷されています。

お客様へ

本製品は消費生活用製品安全法（消安法）で指定される特定保守製品です。

法定点検を受けるために所有者登録を行ってください。

（製品に同梱した「所有者票」に記入し投函願います。）

正しく使って上手に節約

型式 **FF-SG6819K**

エフエフ エス ジー

ケー

FFタイプ

FF式輻射

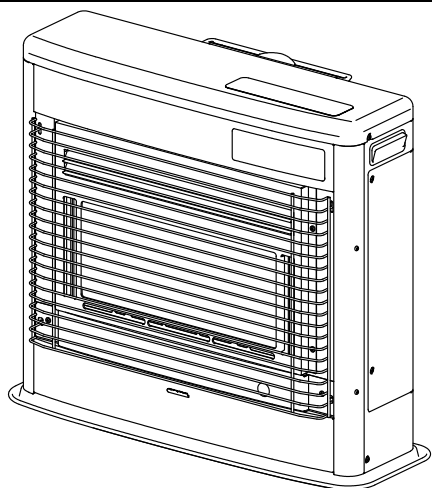
ユーエイチ エフエス ジー

ケー

UH-Fタイプ

型式 **UH-FSG7019K**

FF式輻射+床暖



このたびは、コロナ石油ストーブをお買いあげいただき、まことにありがとうございました。正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。

なお、お読みになった後もお使いになる方がいつでも見られる所に大切に保管してください。

スペースネオ オーナーズサイト

型式：FF-SG6819K
UH-FSG7019K



QRコードを読み取ると取扱説明書の閲覧や所有者登録、修理受付などにアクセスできます。



警告

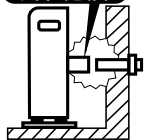


ガソリン使用禁止
使用燃料：灯油
KEROSENE ONLY

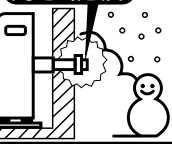
警告

給排気筒を必ず点検してください

外れ危険



閉そく危険



もくじ

	ページ
1 特に注意していただきたいこと (安全のために必ずお守りください)	1~3
* 灯油の廃棄について	3
2 使用する場所	3
3 各部の名称	4~6
● 外観図・構造図	4
● 表示部・操作部	5~6
4 使用前の準備	7~8
● 燃料	7
● 給油	7
● 運転開始前の準備と確認	8
5 使用方法(使い方)	9~17
● チャイルドロックの解除	9
● 運転開始(点火)・運転停止(消火)	9
● 室温の調節	10
● 床暖房運転とストーブ運転の切換えのしかた	11
● 床暖パネルの温度調節	11
● eco(エコ)運転	11~12
● スマート床暖房運転	12
● サポートヒータ運転	12
● クイック微少運転	13
● 現在時刻の合わせ方	13
● タイマーの使用法	14
● チャイルドロック	15
● 運転停止中も時計を表示させたいとき	15
● eco(エコ)ガイド	15~16
● 使用上の注意	16
● 自己診断モニタについて	17
6 安全装置	18
7 その他の装置	19
8 日常の点検・手入れ	20~22
9 定期点検	22
10 故障・異常の見分け方と処置方法	23~24
11 部品交換のしかた	25
12 保管(長期間使用しない場合)	25
13 仕様	26~27
14 アフターサービス	27
15 据付け・移設	28~32
■ お客様ご相談窓口	34
■ 保証書	裏表紙



株式会社 **コロナ**

1 特に注意していただきたいこと (安全のために必ずお守りください)

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性または火災の可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

本文中のマークは、次の意味を表します。

	このマークは、「注意」していただく内容です。
	このマークは、してはいけない「禁止」を表しています。
	このマークは、必ず実行していただく「指示」を表しています。

警告 (WARNING)

ガソリン厳禁
ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。少量の混入でも火災の原因になります。



衣類の乾燥厳禁
衣類などの乾燥には使用しないでください。衣類が乾燥すると、ストーブの熱気でゆれて落下して火がつき、火災の原因になります。



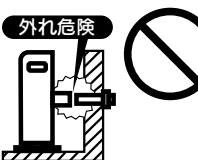
スプレー缶厳禁
スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、温風のあたるところに放置しないでください。熱で缶の圧力が上がり、爆発して危険です。



温風吹出口をふさがない
衣類、紙などで温風吹出口や空気取入口をふさがないでください。衣類、紙などでふさぐと、異常燃焼や火災の原因になります。



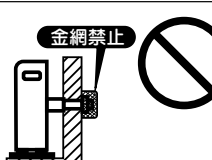
給排気筒 (管、ホース) 外れ危険
給排気筒 (管、ホース) が外れたまま使用しないでください。外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



可燃物近接厳禁
カーテン・布団や毛布など燃えやすいもののそばなどで使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。可燃物との離隔距離については、標準据付け例 (28ページ) を参照してください。



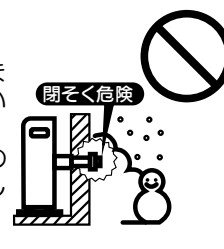
給排気筒トップには金網などは付けない
給排気筒トップには、虫よけのための金網などは付けしないでください。給排気の妨げになり、異常燃焼を起こし排ガスが室内に漏れる可能性があります。



定期点検の実施
定期的 (2年に1回程度) に点検・整備を受けてください。点検を受けずに長期間使用し続けると、故障や事故の原因になり危険です。点検・整備はお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口もしくは修理資格者のいる店に依頼してください。



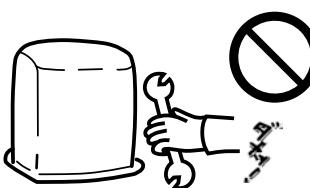
給排気筒トップ閉そく危険
給排気筒トップの周りが雪でふさがれたまま使用しないでください。ふさがれているときは、除雪してください。また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでおやめください。閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



低温やけどに注意 (UH-Fタイプ)
長時間皮膚の同じ場所に触れないでください。比較的低い温度 (40~60℃) でも低温やけどや脱水症状の原因となります。



改造使用の禁止
改造して使用しないでください。また、ストーブや給排気筒には床暖房用の熱交換器などを取り付けてください。火災や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。安全装置の無効化など機器の安全性を損なう改造は火災など思わぬ事故の原因になります。



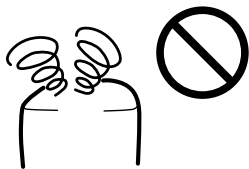
ご自身での据付け・移設工事の厳禁
お客様ご自身による工事は危険です。据付け工事は販売店や専門業者にご依頼ください。(ストーブを移設させる場合も同じです。)



⚠ 注意 (CAUTION)

異常・故障時使用禁止

油漏れやにおい、すすの発生、炎の色、エラーを繰り返すなど異常や故障と思われるときは使用しないでください。事故の原因になります。「故障・異常の見分け方と処置方法」にしたがって処置してください。



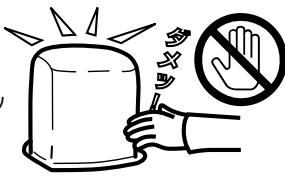
カーペットのはがれに注意 (UH-Fタイプ)

カーペットがずれたりめくれたまま使用しないでください。床パネルに直接触れるとやけどのおそれがあります。



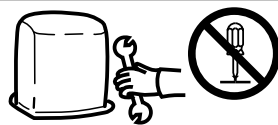
高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部(前パネル・前面ガードなど)給排気筒トップに手などふれないでください。やけどのおそれがあります。



分解修理の禁止

故障・破損したら、使用しないでください。不完全な修理は、危険です。



温風に直接あたらない

温風に直接長時間あたらないでください。低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。



●特にお子様やお年寄り、体の不自由な方が使われるときは、周囲の人が十分注意してください。

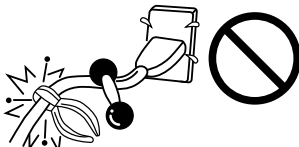
腰をかけたり物をのせない

ストーブの上ののったり、腰をかけたりしないでください。ストーブの故障や、やけどのおそれがあります。ストーブの上に花瓶や水を入れたものなどを置かないでください。水がかかると漏電や故障のおそれがあります。



電源コードを傷めない

電源コードに無理な力を加えたり、傷付けたり束ねたり、物をのせたり加工しないでください。また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。火災や感電の原因になります。



電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。火災の原因になります。ぬれた手で抜き差ししないでください。感電の原因になります。



電源プラグのお手入れをする

ときどきは電源プラグを抜き、ほこりおよび金属物を除去してください。ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。



長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないときはまたは保管するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や予想しない事故の原因になります。



ほこりの除去

フィルタは、週1回以上必ず掃除してください。ごみ・ほこりなどでフィルタがつまると、送風力が弱くなり、排気温度上昇やストーブの表面温度が上昇する原因になります。



指や異物を入れない

前面ガードの中や空気取入口などに指や可燃物・針金などの異物を入れないでください。けがや火災の原因になります。



フィルタを外しての運転禁止

対流用送風機のフィルタを外した状態で運転すると、カーテンなどを巻きこんで火災になるおそれがあります。また手などふれるとけがをするおそれがあります。



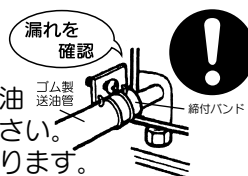
電源の接続

電源は適正配線された単相100Vのコンセント以外は使用しないでください。発熱・発火の原因になります。電源コードは、途中で接続したり、延長コードの使用・他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。発熱・発火の原因になります。



油漏れ確認

油タンク・ゴム製送油管・接合部・給油コックおよびストーブなどからの灯油漏れがないことを確認の上で使用ください。灯油が漏れていると火災のおそれがあります。



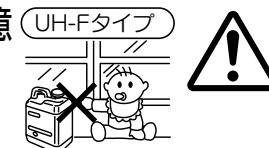
ゴム製送油管の点検・交換

ゴム製送油管を少し曲げてひび割れや亀裂があった場合は交換してください。ゴム製送油管は時間と共に劣化しますので、ひび割れや亀裂などがなくても3年に1度は新しいものに交換されることをお奨めします。交換しないと灯油の漏れにつながり、火災のおそれがあります。



循環液(循環水・不凍液)の保管に注意 (UH-Fタイプ)

幼児の手の届かない所に保管してください。万一、飲んだ場合には吐かせて、医師の診断を受けてください。



シスターンの水位に注意 (UH-Fタイプ)

循環液は少しずつ蒸発します。1ヶ月に1回程度は、シスターンタンクの水位が規定水位にあることを確認し、不足している場合は補充液を補給してください。上限水位より多く入れないように注意してください。入れすぎると使用中に循環液があふれることがあります。



⚠ 注意 (CAUTION)

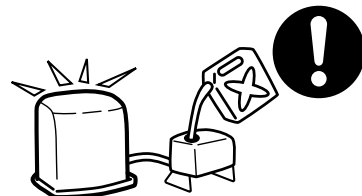
給排気筒付近の可燃物近接禁止

給排気筒トップの近くに、灯油や可燃物など引火のおそれのあるものを置かないでください。
火災のおそれがあります。



給油時消火

火災のおそれがありますので、給油は、必ず消火し、火の気のないところで行ってください。



外出する時は消火

外出するときは、必ず運転を停止し消火してください。



特殊用途には使用しない

食品・精密機器・美術品の保存や、動植物の飼育・栽培などには使用しないでください。



お願い (NOTICE)

機器を廃棄するときの注意

ストーブを廃棄処分するときは、定油面器の灯油を抜き取ってください。
灯油が入ったまま廃棄するとリサイクルの際に思わぬ事故になるおそれがあります。
必ずお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。

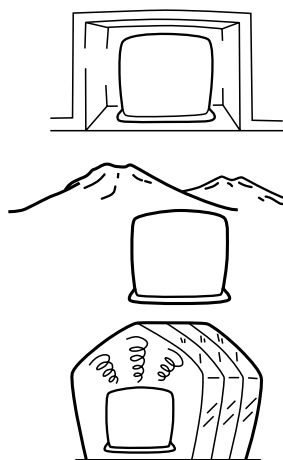
灯油の廃棄

灯油の廃棄処分は、灯油をお買いあげになった販売店にご相談ください。

2 使用する場所

ストーブを安全に使用するためには、場所の選定が大切です。

安全に使用するために



● マントルピースなどに据付ける場合は、標準据付け例にしたがってください。(28ページ参照)



● 空気不足となり、異常燃焼の原因となるので標高が1500m以上の場所では使用しないでください。
標高200m~1500m未満で使用される場合は調整が必要です。
(詳しくは、工事説明書 **高地または延長給排気で使用の場合** をご覧ください。)



● クリーニング店・美容院など化学薬品を使用する場所では使用しないでください。化学薬品などの影響により、異常燃焼や故障の原因になります。

● 乾燥室、温室、飼育室など、動植物の育成栽培に使用しないでください。

● 水平でない場所、不安定な場所では使用しないでください。

● 不安定な物をのせた棚などの下には使用しないでください。

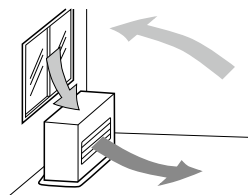
● 可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所には使用しないでください。

● 階段、避難口などの付近で避難に支障となる場所には使用しないでください。

効果的に使用するために

窓の下や壁面に設置

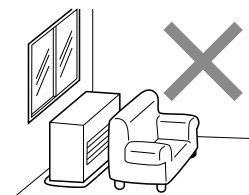
● 外気に接する窓の下や壁面に置くと、冷気がストーブで暖められて対流しますので効果的です。



(ご注意) ストーブの前面に障害物を置かないでください。

● 障害物があると、部屋の温度にむらができるばかりでなく、本体の温度が上昇して危険です。

● ストーブの前面の空間を広くとれる場所を選んでください。



(UH-Fタイプ)

● ストーブ前面からはふく射熱がでますので、床暖パネルとの距離を考慮してください。

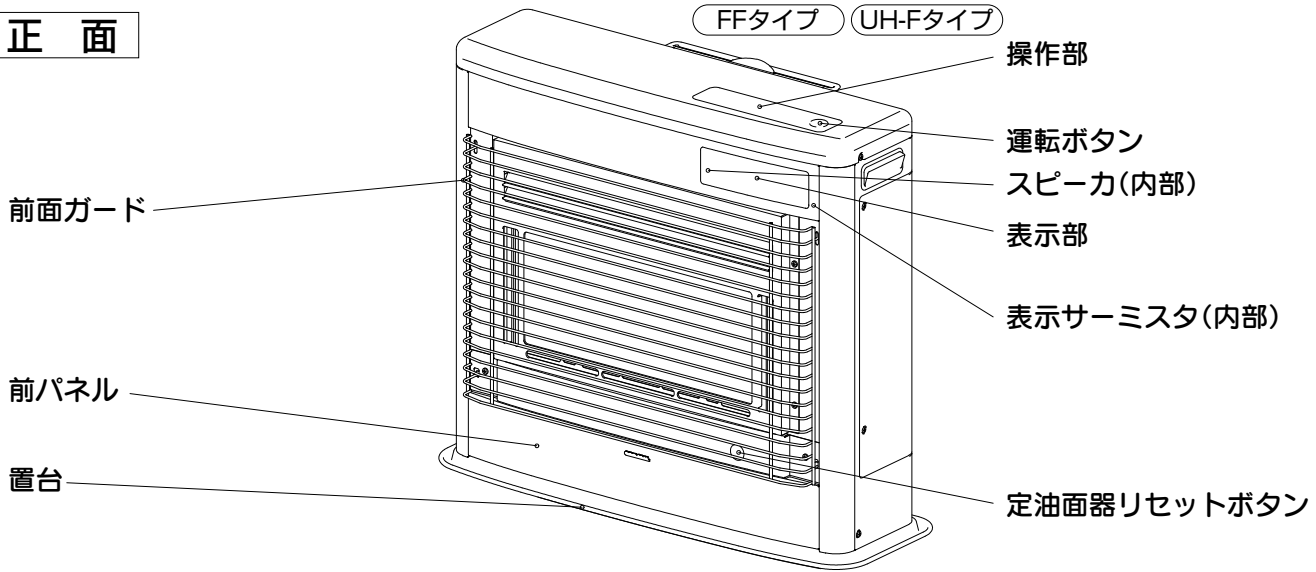
● 温水配管の長さができるだけ短くなるような位置にストーブを設置してください。

3 各部の名称

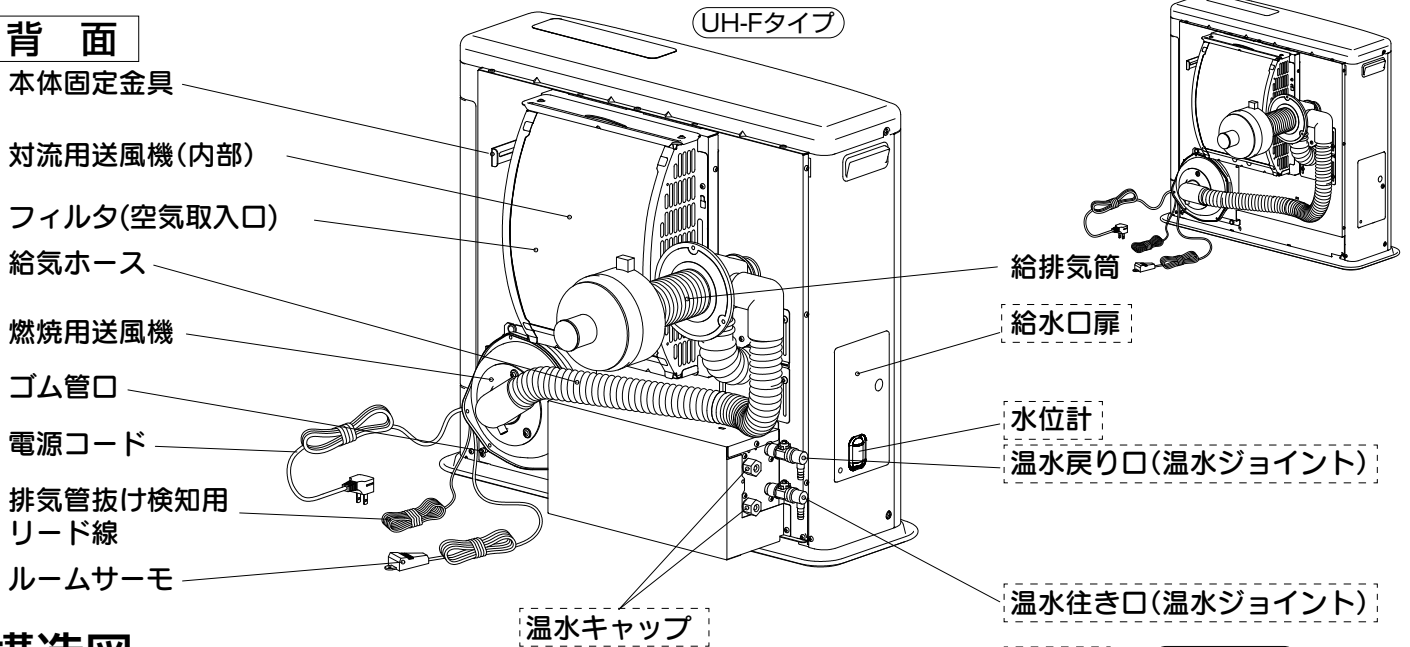
外観図

〔 〕は (UH-Fタイプ) のみ対象です。

正面

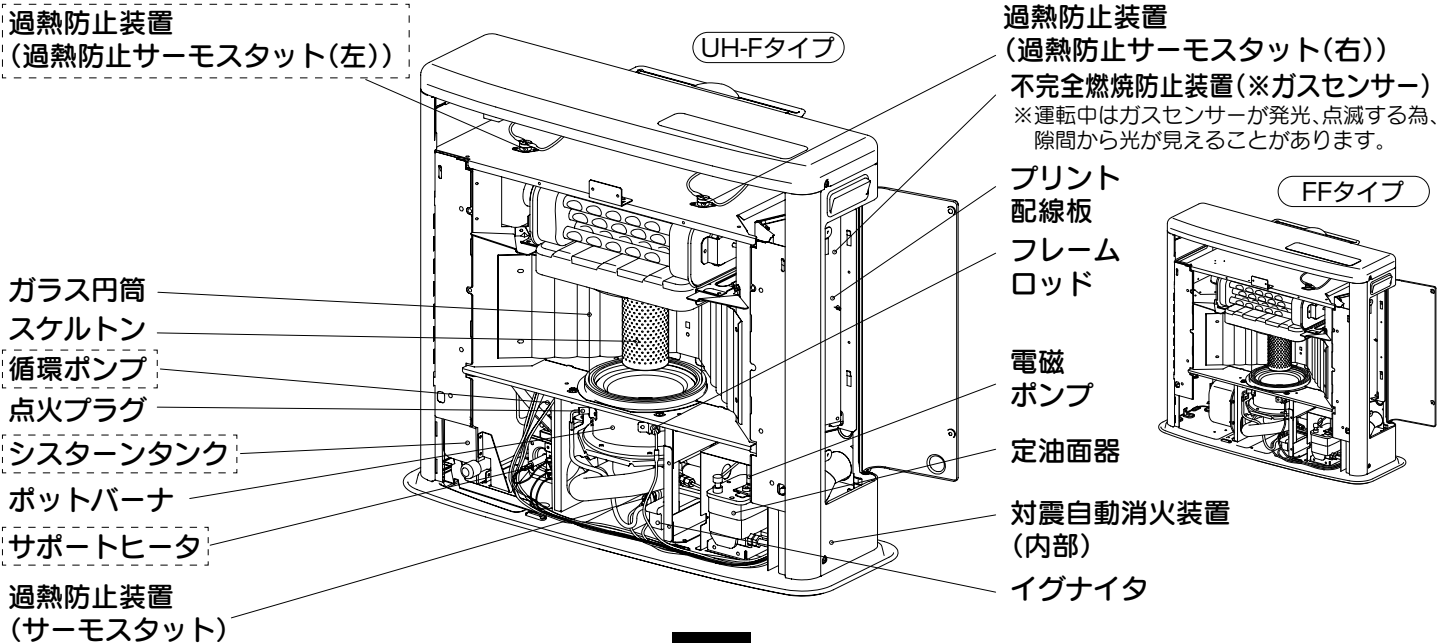


背面



構造図

〔 〕は (UH-Fタイプ) のみ対象です。

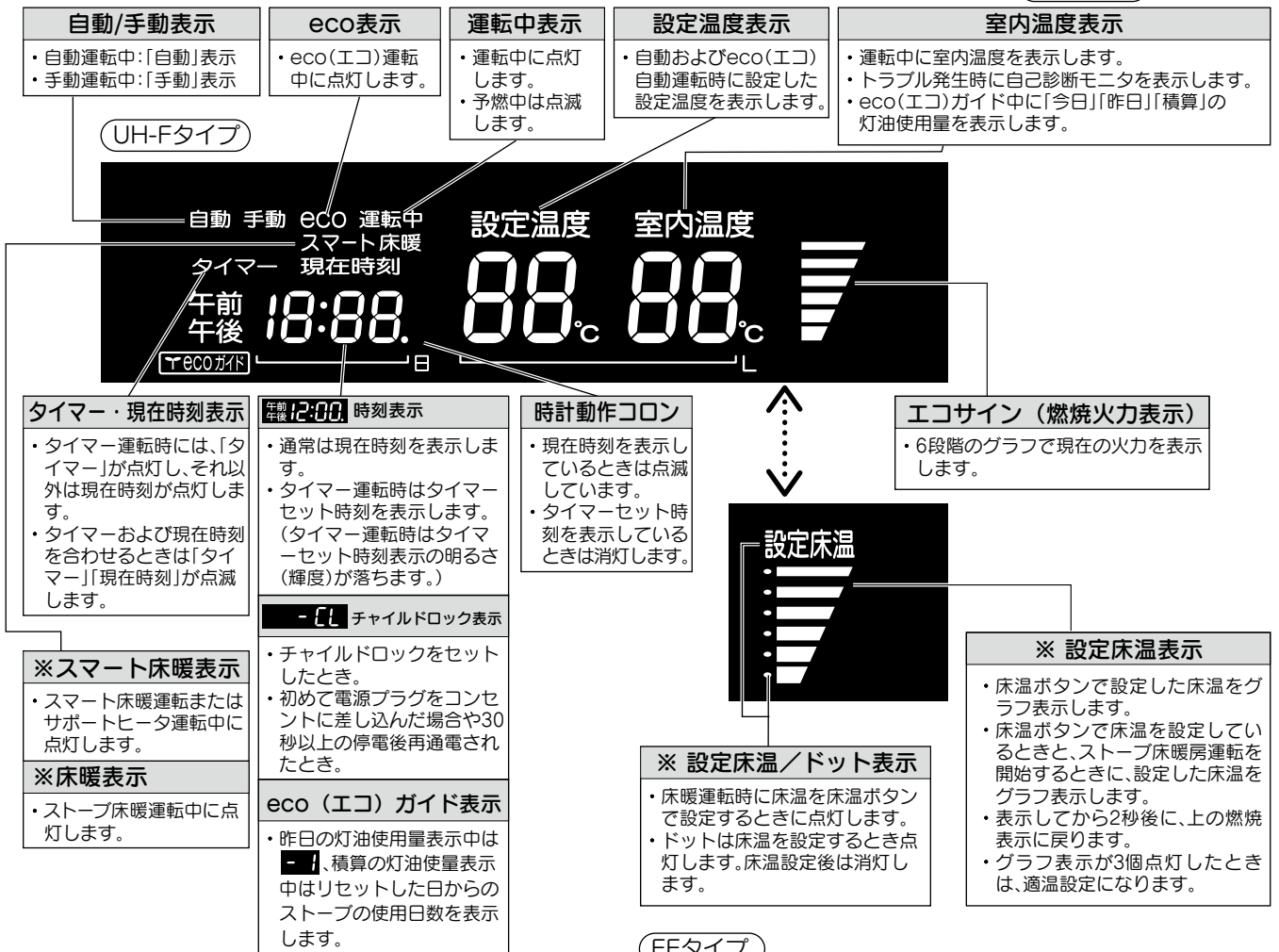


表示部の名称と働き

表示部

★イラストは説明のため全部表示した状態にしてあります。

注)※印は (UH-Fタイプ) のみ対象です。



(FFタイプ)



■エコサイン

エコサイン(火力)	最大	1.3時間
		1.5時間
		1.8時間
		2.3時間
		3.0時間
	微小	4.5時間

■「エコサイン」で灯油1リットルあたりの運転時間がわかります。各火力での1リットルあたりの運転時間(時間はめやすであり、実際の使用時間とは異なる場合があります。)

→ 微小運転は、灯油1リットルで約4.5時間運転できて経済的です。

■運転停止中は表示がすべて消灯します。

- 現在時刻を確認したいときは、操作ボタンのいずれかを押してください。現在時刻を1分間表示します。
- 運転停止中も現在時刻を表示させることができます。
 - 表示切換ボタンを押しながら、温度設定ボタン **+** を押してください。1分以上経過しても時刻表示が消灯しないことを確認してください。
 - もとに戻りたい場合は、同じように表示切換ボタンを押しながら温度設定ボタン **+** を押してください。

■タイマー運転中は表示がすべて暗くなります。

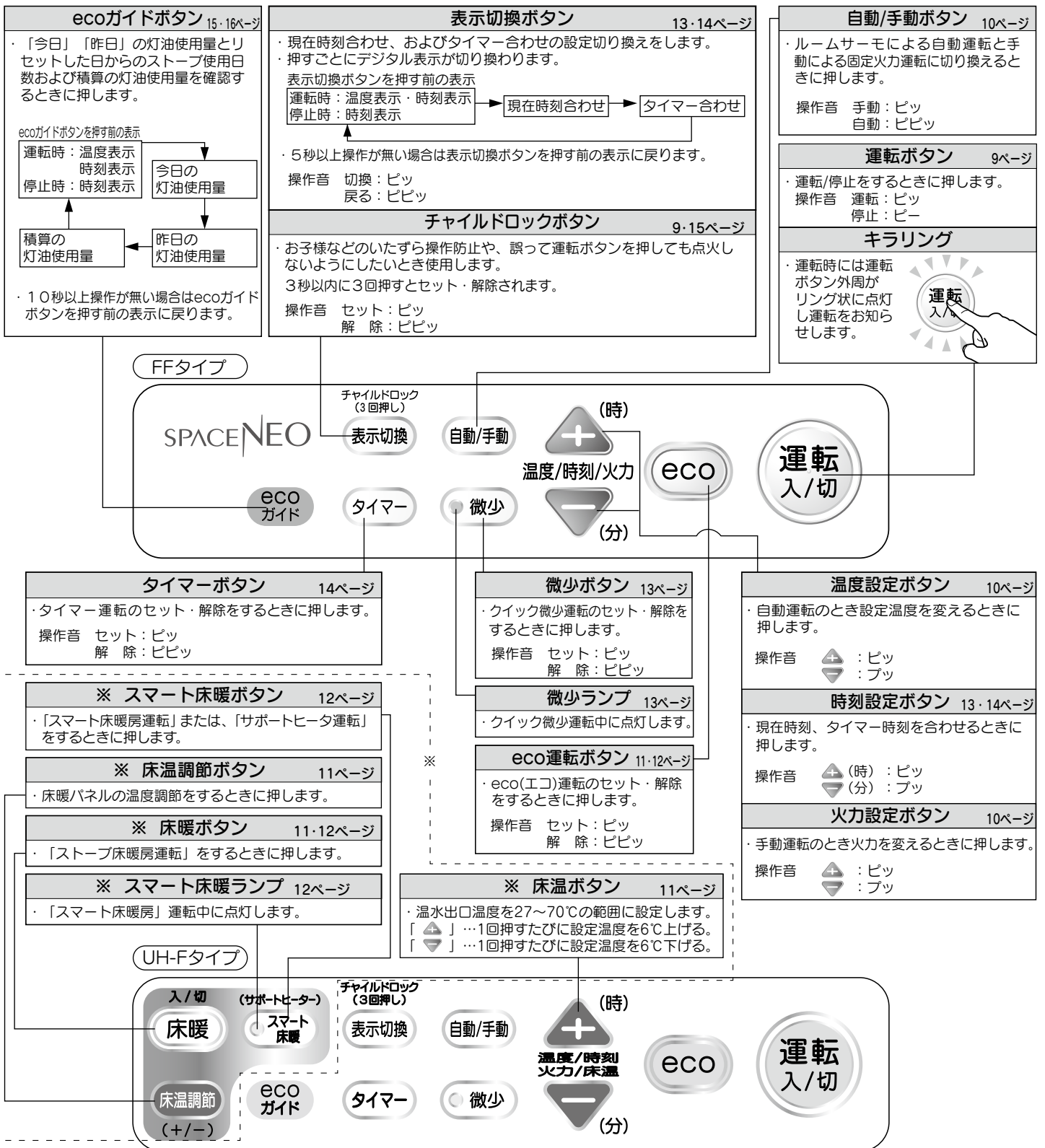
■表示部の明るさ調節

- 温度設定ボタン **+** を押しながら **▼** を押すことにより、表示部の明るさを調節することができます。

操作部の名称と働き

操作部

注) ※印は (UH-Fタイプ) のみ対象です。



「音声お知らせ」の内容と消音方法

- 通常の運転操作(「点火」・「消火」・「タイマーセット」など)を行うとき、音声(“点火します”・“消火します”・“タイマーをセットしました”など)で操作状態をお知らせします。
- eco運転ボタンを押しながら温度設定ボタン▲を押すことにより、「音声お知らせ」を消音することが出来ます。

お願い

- はじめてお使いになる前に
 輸送時の傷を防止するために、操作部の表面には保護フィルムが貼ってあります。ご使用前に取り除いてください。コーナー部分にセロハンテープを貼り付けて、一緒にはがすとより簡単に取り除けます。(保護フィルムは、ストーブの設置工事の際にはがしてある場合があります)

4 使用前の準備

燃料

燃料は必ず灯油（JIS 1号灯油）を使用してください。

- ⚠️ **警告** ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。
- ⚠️ **注意** 不良灯油（変質灯油、不純灯油）は、絶対に使用しないでください。点火・消火しにくくなったり、燃焼が悪くなってすすが出たり、製品の寿命を縮めます。
- ⚠️ **注意** 灯油は必ず火気・雨水・ごみ・高温および直射日光をさけた場所に保管してください。ガソリンなどと一緒には保管しないでください。誤って使用すると異常燃焼や火災のおそれがあります。



灯油とガソリンの見分けかた

指先に燃料をつけ、息をふきかけます。
(火の気のない所で行ってください。)



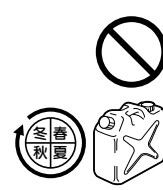
灯油はぬれたまま



ガソリンはすぐ乾く

不良灯油（変質灯油・不純灯油）とは…

昨シーズンより持ち越しの灯油



日光にあたる所や温度の高い所に保管した灯油



容器のふたが開けてあったり、乳白色のポリ容器で保管した灯油



水・ごみや灯油以外の油がほんのわずかも混入した灯油



- 極度に変質したものは、黄色味がかったり、すっぱいにおいがします。
- 必ず灯油用のポリタンクをお使いください。
- 灯油はシーズン中に使いきりましょう。

■変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用すると、ストーブの故障の原因になります。

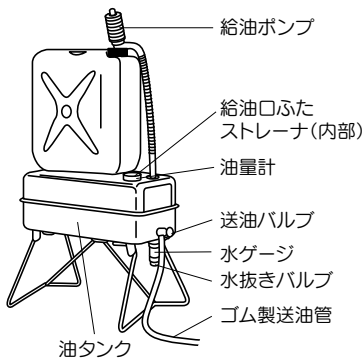
- 油の程度にもよりますが、燃焼不良をおこしたり、ストーブの損傷を早め、故障の原因になります。
- 水やごみが送油経路に流れこみ、油漏れや燃焼不良・着火不良の原因になります。

■変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用したときは…

- お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。

- ご注意** ● 変質灯油、不純灯油などの不良灯油が原因で修理を依頼されたときは、保証期間中でも保証の対象外となります。
- 変質灯油の処理でお困りの場合は、灯油をお買いあげの販売店にご相談ください。

給油



■給油の際の手順と注意

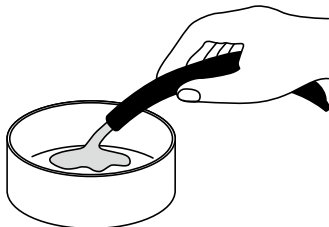
⚠️ **注意** 火災のおそれがありますので、給油は、必ず消火し、火の気のないところで行ってください。

- 送油バルブを閉じて給油口ふたを外し市販の給油ポンプで給油してください。油量計の針が「満」をさしたら給油をやめてください。給油後は、給油口にあるストレーナを取り出して、水やごみがたまっていたら掃除してください。
- ストレーナを取り付けて、給油口ふたを必ずもとどおり締めてください。
- 給油の際は、水・ごみなどを入れないように注意してください。水・ごみなどは燃焼不良や、ストーブの寿命低下などの原因になります。
- 給油口ふたは、確実に閉めてください。
- こぼれた灯油はよくふきとってください。

■燃料切れの注意と空気抜きの方法

油タンクを空にしないよう注意してください。

- 油タンクを空にすると、送油経路内に空気がたまり、正常に送油ができなくなることがあります。このような場合は次の順序で空気抜きをしてください。



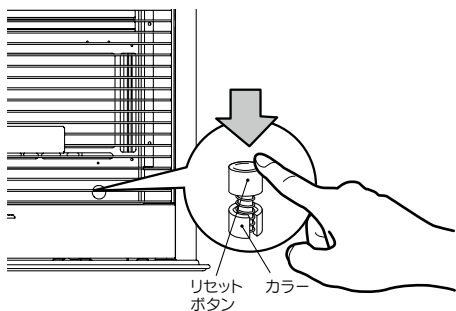
1. 送油バルブを閉じて、油タンクに給油します。
2. ストーブのゴム管口からゴム製送油管を外します。
3. 送油バルブを開け、ゴム製送油管から灯油が連続して流れ出ることを確かめてからゴム製送油管をもとどおりにストーブに取り付けます。
(灯油がこぼれないように容器を用意してください。)

運転開始前の準備と確認

■安全装置のセット、取扱い上の注意

定油面器のセット

初めて使用するときやシーズン初めには、ストーブ正面右下の丸穴から見える定油面器リセットボタン（赤色）を軽く押し下げてください。



ご注意

- リセットボタンは据付け時やシーズン初めに操作します。定油面器に強い衝撃を与えたり異常があったとき以外は、特に操作する必要はありません。万一、点火操作後灯油が出ずに自己診断モニタ[E1]または[E2]が表示されるような場合はリセットボタンを押してください。（安全弁が外れ、灯油がスムーズに流れます。）
- リセットボタンは乱暴に扱ったり、5秒以上押したままの状態や何回も押し下げないでください。定油面器から灯油があふれたりすることがあります。
- カラーは絶対に外さないでください。

■送油経路の油漏れの確認

注意 油タンク・ゴム製送油管・接合部・給油コックおよびストーブなどから灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。灯油が漏れていると火災のおそれがあります。

- 油漏れのあるときは使用を中止し、油タンクの送油バルブを閉じてからお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。

■電気配線の確認

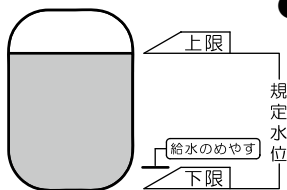
注意 電源プラグをコンセントに根元まで確実に差し込んでください。

- 電源コードが給排気筒などの高温部にふれるおそれのないことを確認してください。

ご注意 電源プラグ・コードの発熱・発火を防ぐために・・・

- 電源は必ず適正配線された単相100Vのコンセントを使用してください。
- 電源コードは、途中で接続したり延長コードを使用しないでください。
- 他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。

■循環液の水位確認 (UH-Fタイプ)



- ストーブの左側面の水位計で、シスターンタンクの規定水量（上限水位と下限水位の間）まで循環液（コロナ床暖房用循環液）が入っていることを確認してください。循環液が入っている場合は黄色になります。循環液は上限より多く入れないように注意してください。入れすぎると使用中に循環液があふれることがあります。水位が下限以下の場合は床暖房専用補充液を入れてください。

■温水配管の水漏れの確認 (UH-Fタイプ)

- ストーブ内部や温水配管接合部から水漏れがないか確認してください。
- 床暖パネルの温水配管の途中にバルブを取り付けた場合は、必ずバルブが開いていることを確認してください。

5 使用方法（使い方）

チャイルドロック **-CL** の解除

初めて電源プラグをコンセントに差込んだり、停電後再通電したときは、チャイルドロックになります。（デジタル表示が **-CL** になります。）
チャイルドロックの解除をする場合は次の手順で操作してください。

操作部の **チャイルドロック** ボタンを**3秒以内に3回**押してください。

チャイルドロック (3回押し)
表示切

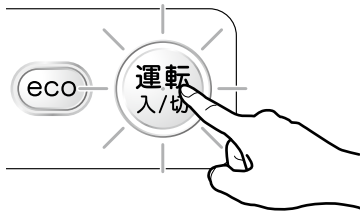
デジタル表示が現在時刻に変わります。

-CL → **6:00**

チャイルドロックが解除され、点火などの操作ができます。

運転開始（点火）・運転停止（消火）

点火順序



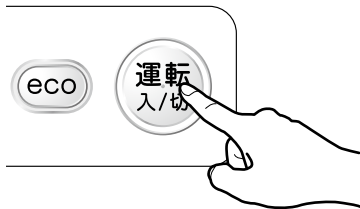
運転ボタンを押して「入」にしてください。

- “点火します”の音声と同時にキラリングが点灯し、「運転中」表示が点滅します。
- 予熱が完了すると点火し、その後「運転中」表示が点灯に変わり温風が出ます。



- 着火時、放電音と同時に着火音を発することがありますが、異常ではありません。
- 点火操作から着火まで約2分です。（室温によっては点火までの時間が変わることがあります。）
- 着火後しばらくしてから温風が出始めます。
- 1回で着火しない（放電音が繰り返し鳴る）ことがありますが、異常ではありません。
- 本体内部が熱により膨張、収縮するため「ピチピチ」や「カンカン」という音がしますが異常ではありません。

消火順序



運転ボタンを押して「切」にしてください。

- “消火します”の音声と同時にキラリングと「運転中」表示が消灯します。
消火後は本体内部が冷却するまで送風を継続し、約10分後に燃烧用送風機・対流用送風機が停止し、表示部が消灯します。
- 床暖房運転中に運転ボタンを「切」にした場合は、ストーブの運転と床暖房運転の両方が停止します。

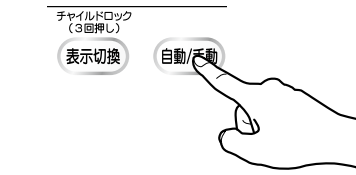
⚠注意 2日以上家をあけるなど長期間使用しない場合は、運転が完全に停止してから電源プラグをコンセントから抜いてください。

- 外出のときは、必ず運転を停止（消火）してください。
- 運転中は電源プラグを抜いて消火させないでください。ストーブが過熱して故障の原因になります。
- 運転停止後、燃烧室が冷却（表示が消灯）するまでは電源プラグを抜かないでください。
ストーブが過熱して故障の原因になります。
- 本体内部が熱により膨張、収縮するため「ピチピチ」や「カンカン」という音がしますが異常ではありません。

室温の調節

■「自動運転」の場合

ルームサーモにより、設定温度に応じて自動的に火力調節を行います。設定温度は10℃～30℃の間で設定できます。次のように設定してください。



自動/手動ボタンを押して「自動」表示にします。

- “自動に変更しました”の音声と同時に表示部に設定温度と室内温度が表示されます。

室温の調節 を行ってください。

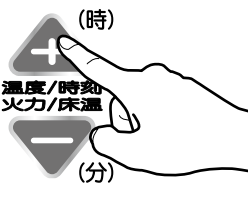
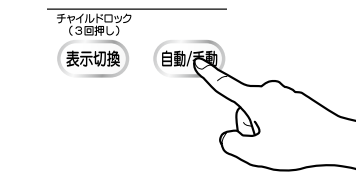
- 温度設定ボタン \blacktriangle を押すと1℃上がります。(上限30℃)
 - 温度設定ボタン \blacktriangledown を押すと1℃下がります。(下限10℃)
- 温度設定を変更すると“□□℃に変更しました”と音声でお知らせします。

ご注意

- ルームサーモは、できるだけ部屋の温度を代表できる位置に取り付けてください。
- ストープの位置や部屋の大きさなどで、必ずしも表示部の室内温度と室温が一致しない場合があります。このような場合は、ストープの上やストープの熱の受けやすい場所、または直射日光や冷気の当たる場所を避け、できるだけ部屋の温度を代表できる位置に取り付けてください。
- 比較的暖かい時期など、設定温度より室温が上がりすぎるときにはeco(エコ)運転をご使用ください。ecoセーブ運転によって、消火と燃焼をくりかえし、室温を調節します。(11～12ページ(eco)運転の項参照)
- 設定温度を設定するとその設定を記憶しますので、設定温度を変更しない限り、同一の設定温度になります。

■「手動運転」の場合

固定火力運転による火力調節が可能です。火力は6段階の調節ができ、表示部にエコサインが表示されます。次のようにご希望の火力に調節してください。



自動/手動ボタンを押して「手動」表示にします。

- “手動に変更しました”の音声と同時に表示部に室内温度、エコサイン(燃焼火力表示)が表示されます。

火力の調節 を行ってください。

- 火力設定ボタン \blacktriangle を押すと1火力上がります。(上限6)
- 火力設定ボタン \blacktriangledown を押すと1火力下がります。(下限1)

<床暖房運転時の手動火力調節について>

- 本ストープの床暖房能力は使用火力によって変化します。パネル敷畳数が多い場合火力調節が低いと床暖パネルが温まらないことがあります。お使いのパネル敷畳数をご確認の上、下記の表をめやすに火力の調節をしてご使用ください。

畳数	3	4	～ 6	～ 10
火力	■	■	～ ■	～ ■

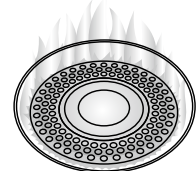
■炎の状態

ストープの据付けや給排気筒の設置条件で炎は多少変化します。

- 炎の状態は、青い炎の中にいくらかの黄色い炎(赤火)が混じっても異常ではありません。
- 細かい(霧状の)水滴やホコリを吸気した場合は全体的に淡いオレンジ色になることがありますが異常ではありません。

正常燃焼

青い炎の中に少し黄色い炎が混じっている



床暖房運転とストーブ運転の切換えのしかた (UH-Fタイプ)

■床暖房運転とストーブ単独運転の切換えのしかた

- ストーブ床暖運転を行う場合は運転ボタンを「入」にし、床暖ボタンを押してストーブ床暖房運転に切換えて運転してください。表示部の床暖表示が点灯します。
ストーブ単独運転を行う場合は再度、床暖ボタンを押してください。

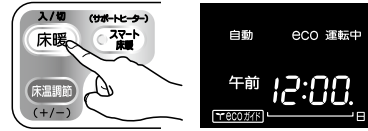
ストーブ床暖房で運転する場合

・表示部の「床暖」表示が点灯



ストーブ単独で運転する場合

・表示部の「床暖」表示が消灯

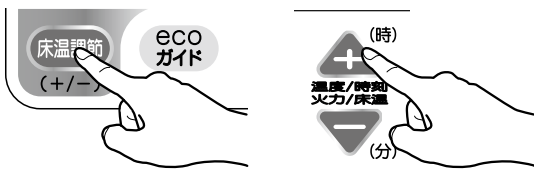


■運転中に床暖ボタンを操作した場合

- ストーブ単独運転→ストーブ床暖房運転…「ジュー」という循環液の蒸発音がすることがありますが異常ではありません。
- ストーブ床暖房運転→ストーブ単独運転…循環ポンプは本体内部冷却のため約10分後に停止します。

床暖パネルの温度調節 (UH-Fタイプ)

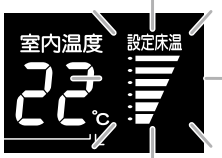
床暖房運転の場合、循環液が設定温度になるように温度調節します。また、設定床温は6段階にグラフ表示します。グラフ表示3つ目は、床暖パネルのカーペット表面をほぼ33℃(床暖パネル3畳の場合)に保つ循環液温度を示します。



- 床温調節ボタンを押してから床温ボタン▲▼を押すと次のように床温調節でき設定床温表示グラフも移動点灯します。

- ・ ▲ …1回押すと設定温度を6℃上げ、グラフ表示が上に移動。
- ・ ▼ …1回押すと設定温度を6℃下げ、グラフ表示が下に移動。

- 設定床温を変更すると“床暖の温度を変更しました”と音声でお知らせします。



- 設定床温は、床暖パネルの温度設定です。お部屋の温度設定は温度調節ボタンで行ってください。カーペットの表面が熱くなりすぎないように、設定床温は十分注意してください。

eco (エコ) 運転

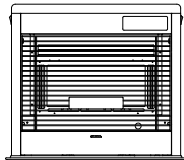
自動運転時にeco運転ボタンを押すとご希望の設定温度に切り換わり、セーブ消火とecoセーブ運転でムダな暖めすぎをおさえ、経済的で快適な温度を保ちます。

また、自動運転時は最大火力を70~90%、手動運転時は80~90%におさえてお部屋を暖めすぎないように運転します。

自動運転時

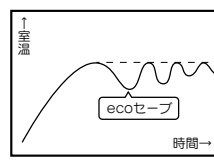
〔設定温度20℃の場合〕

●eco(エコ) 運転



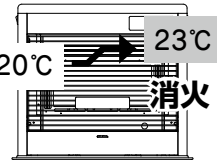
最大火力を70~90%におさえて室内を暖房します。

●ecoセーブ運転



ムダな暖めすぎを抑え、快適な室温を保ちます。

●セーブ消火



室温が設定温度より約3℃上昇すると消火し、設定室温以下になると再点火します。

eco運転ボタンを押すと設定温度が20℃に切り換わります。

※設定温度の初期設定は20℃です。設定温度は、温度設定ボタンで10~30℃に変更できます。

- 室温が20℃未満で30分以上運転した場合は、最大火力を90%におさえて運転します。
- 室温が20℃以上の場合、最大火力を80%におさえて運転します。
- 室温が24℃以上で30分以上運転した場合、最大火力を70%におさえて運転します。

手動運転時

- 室温が20℃以上の場合、最大火力を90%におさえて運転します。
- 室温が24℃以上で30分以上運転した場合、最大火力を80%におさえて運転します。

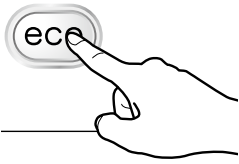
eco(エコ) 運転方法



eco運転ボタンを押してください

- “eco(エコ)運転をセットしました”の音声と同時に「eco」表示が点灯し、eco(エコ)運転に入ります。
- 手動運転の場合は最大火力時にeco(エコ)運転がはたらきます。

eco(エコ) 運転の解除



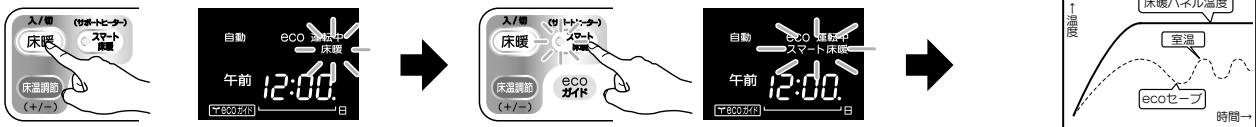
再度、eco運転ボタンを押してください

- “eco(エコ)運転を解除しました”の音声と同時に「eco」表示が消灯し、eco(エコ)運転を解除します。
- eco(エコ)運転を解除するとeco(エコ)運転前の設定にもどります。

スマート床暖房運転 (UH-Fタイプ)

ストーブの排気の熱とサポートヒータ(電気ヒータ)で循環液が設定温度になるように温度調節します。お部屋を暖めすぎないように快適に床暖房運転ができます。

スマート床暖房運転方法



運転ボタンを「入」にしてから床暖ボタンを押してください。

- 表示部に「床暖」表示が点灯し、ストーブ床暖房運転になります。

ストーブ床暖房運転中にスマート床暖ボタンを押してください。

- 表示部に「スマート床暖」表示と操作部のスマート床暖ランプが点灯し、スマート床暖房運転になります。

- ストーブの排気の熱とサポートヒータで床暖房運転をします。
- eco運転と併用することでecoセーブ中(ストーブ消火中)もサポートヒータで床暖パネルを快適な温度に保ちます。

スマート床暖房運転の解除



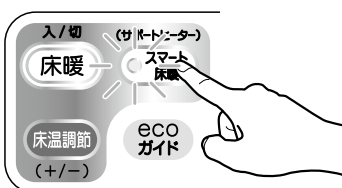
再度、スマート床暖ボタンを押してください。

- 表示部の「スマート」表示と操作部のスマート床暖ランプが消灯します。
- ストーブ単独運転を行う場合は、床暖ボタンを押してください。(11ページ参照)
- ストーブ単独運転中はスマート床暖ボタンは受け付けません。(11ページ参照)

サポートヒータ運転 (UH-Fタイプ)

春先や秋口などの足元が少し寒く感じる時にサポートヒータ運転のみで快適な床暖房運転ができます。

サポートヒータの運転と停止方法



運転停止中にスマート床暖ボタンを押してください。

- 表示部の「スマート床暖」表示と「設定床温」表示と操作部のスマート床暖ランプが点灯し、サポートヒータ運転に入ります。

サポートヒータ運転を停止する場合は、再度スマート床暖ボタンを押してください。

- 表示部の「スマート床暖」表示と「設定床温」表示と操作部のスマート床暖ランプが消灯し、サポートヒータ運転を停止します。
- サポートヒータ運転の消し忘れを防止するため、操作後8時間で自動停止します。

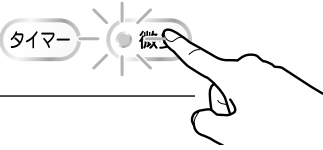
クイック微少運転

- 運転中に微少ボタンを押すと、ワンタッチで最小火力になり、部屋の暖めすぎを防止します。

■クイック微少運転方法

チャイルドロック
(3回押し)

表示切換 自動/手動



微少ボタンを押してください

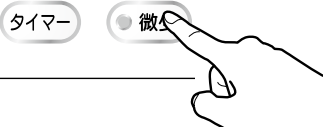
- “微少をセットしました”の音声と同時に微少ランプが点灯し、火力が最小火力に設定されクイック微少運転に入ります。



■クイック微少運転の解除方法

チャイルドロック
(3回押し)

表示切換 自動/手動



再度、微少ボタンを押してください

- “微少を解除しました”の音声と同時に微少ランプが消灯し、クイック微少運転を解除します。
- クイック微少運転を解除するとクイック微少運転前の設定に戻ります。

現在時刻の合わせ方

チャイルドロック
(3回押し)

表示切換 自動/手動



現在時刻は工場出荷時に合わせてありますが、多少ずれることがあります。時刻がずれている時は、次の手順で合わせてください。

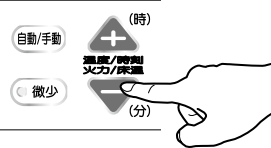
- 表示切換ボタンを押して「現在時刻」表示にします。
現在の設定時刻が表示され「現在時刻」表示が点滅します。
- 時刻設定ボタン \blacktriangle (時) \blacktriangledown (分) を押して現在時刻を合わせます。
1回押すと \blacktriangle (時) は1時間、 \blacktriangledown (分) は1分進みます。
押し続けによるボタンの受け付けも行います。
(時刻設定は「現在時刻」が点滅中設定できます。点滅が終了した場合は、再度表示切換ボタンを押して設定してください。)
- 時刻合わせを行い表示切換ボタンを押したとき、または5秒間操作がなく「現在時刻」表示が消灯したときに時計動作が開始します。

例：午前6時15分に合わせる場合

- \blacktriangle (時) ボタンを押して“午前6：00”にします。



- \blacktriangledown (分) ボタンを押して“午前6：15”にします。



タイマーの使用法

■タイマー時刻の合わせ方



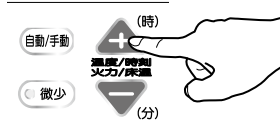
- 表示切換ボタンを2回押して「タイマー」表示にします。現在のタイマー時刻または-:ーが表示され「タイマー」が点滅します。
- 時刻設定ボタン ▲ (時) ▼ (分) を押してタイマーセット時刻を合わせます。1回押すと ▲ (時) は1時間、▼ (分) は5分進みます。押し続けると表示は連続して変わります。

(タイマー時刻設定は「タイマー」が点滅中設定できます。点滅が終了した場合は、再度表示切換ボタンを押して設定してください。)

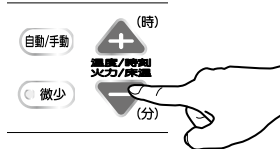
- 表示切換ボタンを押してください。

例：午前6時30分に合わせる場合

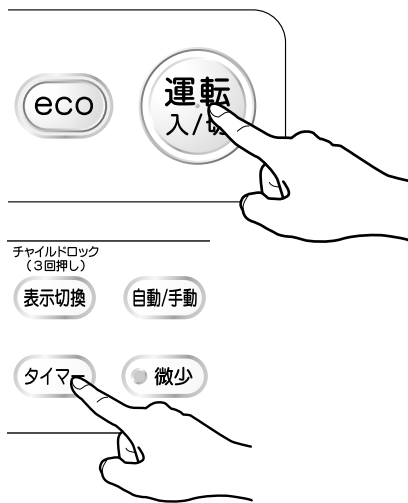
- ▲ (時) ボタンを押して“午前6:00”にします。



- ▼ (分) ボタンを押して“午前6:30”にします。



■タイマー運転方法



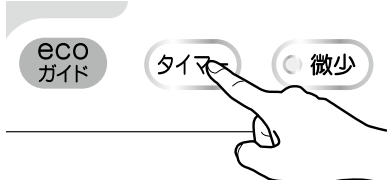
タイマー時刻が設定されていないと、タイマー運転はできません。

- 運転ボタンを押して「入」にしてください。(運転中の場合は運転ボタンを押す必要はありません。)
- 運転するときのご希望の温度設定または、火力設定に合わせてください。
- タイマーボタンを押してください。
 - “タイマーをセットしました”の音声と同時にタイマー表示とタイマーセット時刻が表示され、タイマー運転に入ります。運転中の場合は消火動作に入ります。
 - タイマーセット時刻になると、運転を開始します。



- 外出時など、留守中に燃焼を開始するようなタイマーセットは、絶対にしないでください。
- タイマー運転中は、運転ボタンが「入」になっていないと運転が開始されません。
- タイマー運転中はタイマーセット時刻表示の明るさ(輝度)が落ちます。
- タイマーセット時刻になるまでは、時刻表示にタイマーセット時刻が表示され続けます。
- タイマー運転設定後に停電(30秒以上)があった場合や、対震自動消火装置が作動した時は、タイマー運転が解除され、点火しません。

■タイマー運転の解除



- 再度、タイマーボタンを押してください。
- “タイマーを解除しました”の音声と同時にタイマー表示が消灯し、時刻表示に現在時刻が表示され(「運転中」点滅)自動的に運転を開始します。
- 運転を停止する場合は、運転ボタンを「切」にしてください。

チャイルドロック

お子様などによるいたづら操作の防止や、誤って運転ボタンを押しても点火しないようにしたいときに使用します。

■チャイルドロックのセット

チャイルドロック
(3回押し)

表示切替



チャイルドロックボタンを3秒以内に3回押してください。

●時刻表示部に **-[L]** と表示されるとセット完了です。

- 停止中または運転中にチャイルドロックのセットができます。
- 運転中にチャイルドロックをセットすると運転停止（消火）操作以外は受け付けません。
(**-[L]** 表示の点滅でお知らせします。)

■チャイルドロックの解除

チャイルドロック
(3回押し)

表示切替



再度、チャイルドロックボタンを3秒以内に3回押してください。

● **-[L]** 表示が現在時刻表示になり、解除されます。

運転停止中も時計を表示させたいとき

運転停止中は表示はすべて消灯しますが、下記の方法により現在時刻を表示させることができます。

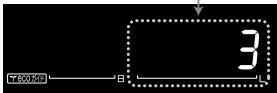
- 表示切替ボタンを押しながら、時刻設定ボタン **▲** (時) を押します。
1分以上経過しても時間表示が消灯しないことを確認してください。
- もとに戻したい場合は、同じように表示切替ボタンを押しながら時刻設定ボタン **▲** (時) を押してください。

eco (エコ) ガイド

「今日」「昨日」の灯油使用量とリセットした日からのストーブ使用日数および積算の灯油使用量を表示します。ecoガイドボタンを押すと表示部がecoガイドの表示に切り換わり、ボタンを押すごとに表示部が次のように切り換わります。

●今日の灯油使用量

灯油使用量



今日の現在までの灯油使用量を表示します。
(午前0時から現在までの灯油使用量を表示します。)

●昨日の灯油使用量

日数 灯油使用量



昨日1日の灯油使用量を表示します。
(午前0時から24時間の灯油使用量を表示します。)
※日数表示部に-1を表示します。

●積算の灯油使用量

日数 灯油使用量



ストーブの使用日数と積算の灯油使用量を表示します。
(ストーブの使用日数は午前0時に更新します。)

●灯油使用量は1L単位で表示します。

※灯油使用量は小数点以下を四捨五入した数値を表示します。

ご注意

- 現在時刻が合っていない場合、灯油使用量や使用日数が正しい値を表示しません。
「現在時刻の合わせ方」(13ページ)を参照し、時刻合わせを行ってください。
- 停電(30秒以上)があった場合は、今日の灯油使用量が「0」になります。
ただし昨日の灯油使用量とリセットした日からのストーブ使用日数および積算の灯油使用量は記憶されます。
- 表示する灯油使用量はめやすです。使用状況によって実際の灯油使用量と異なる場合があります。

■eco (エコ) ガイドの表示方法

ecoガイドボタンを押すごとに表示が切り換わります。

eco
ガイド

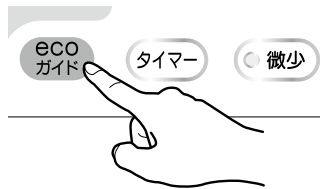
タイマー

微少



今日の灯油使用量を確認する場合

- ecoガイドボタンを押してください。(1回)
- “今日の使用量です”の音声と同時に今日の灯油使用量を表示します。



昨日の灯油使用量を確認する場合

- ecoガイドボタンを押してください。(2回)
- “昨日の使用量です”の音声と同時に昨日の灯油使用量を表示します。

積算の灯油使用量を確認する場合

- ecoガイドボタンを押してください。(3回)
- “積算の使用量です”の音声と同時にリセットした日からのストーブ使用日数と積算の灯油使用量を表示します。
 - eco(エコ)ガイド表示中に10秒間操作がない場合、通常表示に戻ります。
 - eco(エコ)ガイド表示中にタイマー運転は使用できません。
 - ストーブ使用日数の上限は「1999」日です。それ以上は使用日数が増えません。必要に応じて積算の灯油使用量をリセットしてください。
 - 積算の灯油使用量の上限は「9999」Lです。それ以上は使用量が積算されません。必要に応じて積算の灯油使用量をリセットしてください。

■積算の灯油使用量のリセット方法

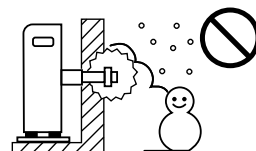


- 積算の灯油使用量を表示している状態で「タイマーボタン」を3秒以上押してください。
 - ・“積算をリセットしました”の音声と同時にリセットした日からのストーブ使用日数と積算の灯油使用量をリセットし表示が「0」になります。

使用上の注意

本書の「特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください」の他に、次の項目についても注意してください。

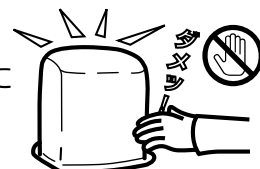
- ⚠警告** ●給排気筒トップ閉そく危険
給排気筒トップの周りが雪でふさがれたままで使用しないでください。ふさがれているときは、除雪してください。また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでおやめください。閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。



- ⚠警告** ●低温やけどに注意 (UH-Fタイプ)
長時間皮膚の同じ場所に触れないでください。比較的低い温度(40~60℃)でも低温やけどや脱水症状の原因となります。



- ⚠注意** ●高温部接触禁止
燃焼中や消火直後は、高温部(前パネル・前面ガードなど)給排気筒トップに手などふれないでください。やけどのおそれがあります。小さいお子様のいるご家庭では、特に注意してください。



- ⚠注意** ●長期間使用しないときは電源プラグを抜く
長期間使用しないときまたは保管するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や予想しない事故の原因になります。



ストーブ周囲の注意

- ストーブ下面や、ふく射熱が強いストーブ前面付近などには、熱に弱いものを置いたり、敷いたりしないでください。変色や変形したりすることがあります。

前面ガードを外したまま運転しない

- 前面ガードを外したまま使用しないでください。誤って放熱器や平面ガラスなどの高温部にふれるとやけどをします。

平面ガラスには水をかけない

- 平面ガラスには水をかけたり、衝撃をあたえたりしないでください。ガラスが割れ危険です。

雷発生時は電源プラグを抜く

- 雷が発生したとき、雷(誘導雷)により一時的な過電圧がかかっても、過電圧防止装置がストーブを保護するしくみになっていますが、大きな雷(直撃雷など)の場合は、電子部品を損傷する恐れがありますので、電源プラグをコンセントから抜いてください。

床暖房の床温調節 (UH-Fタイプ)

- 設定床温は、床暖パネルの温度設定です。お部屋の温度設定は温度設定ボタンで行ってください。カーペットの表面が熱くなりすぎないように設定床温には十分注意してください。

循環液の凍結予防(循環液の注入) (UH-Fタイプ)

- 腐食予防および凍結予防のために循環液は必ずコロナ床暖房用循環液(別売品)をご使用ください。他の不凍液を使用したり混合したりすると製品の寿命が短くなります。
- 循環液は3年をめやすに入れかえてください。(開封した循環液も含む)

自己診断モニタについて

故障・異常が発生すると状態が設定室温表示に記号表示（自己診断モニタ）されます。

この場合は「故障・異常の見分け方と処置方法」（23～24ページ）をご覧ください。記号に合った必要な処置をしてください。

（自己診断モニタ）

表示	原因	処置方法	表示	原因	処置方法	表示	原因	処置方法
E1	途中消火	①	ER	燃焼用送風機異常検出	①	F0 ※	熱交サーミスタ断線	①
E2	不着火		EC	ルームサーモ短絡		F1 ※	熱交サーミスタ温度異常（床暖房運転）	
E3	対震作動		ED	対流用送風機異常検出		F2 ※	湯温サーミスタ断線	
E4	過熱防止装置作動		EF	空気サーミスタ温度異常		F3 ※	熱交サーミスタ温度異常（ストーブ運転）	
E5	排気管抜け検知作動		EH	表示サーミスタ温度異常		FL ※	湯温サーミスタ短絡	
E6	ルームサーモ断線		P1	ポット予熱不足		HE	不完全燃焼防止装置検知部異常	
E9・EE	停電	②	P2	ポット温度低下	HL点滅	不完全燃焼防止装置作動	③	
E8	疑似火炎		P3	ポット異常過熱	HH点滅	連続不完全燃焼通知機能作動		
					HH点灯	再点火防止機能作動		④

注) ※印は (UH-Fタイプ) のみ対象です。

表示	表示理由・処置方法
BB	点検時期お知らせ機能（タイムスタンプ）が作動しました。 下記の「■BB表示 点検時期お知らせ機能について」を参照して、点検（有料）を依頼してください。

■処置方法

- ①運転ボタンを一旦「切」にし、再び「入」にしてください。
- ②お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。
- ③直ちに部屋の換気を十分にしてお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。
- ④直ちに部屋の換気を十分にしてお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。

お願い

- お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡していただく際は、表示している自己診断モニタもお知らせください。

■BB表示 点検時期お知らせ機能について

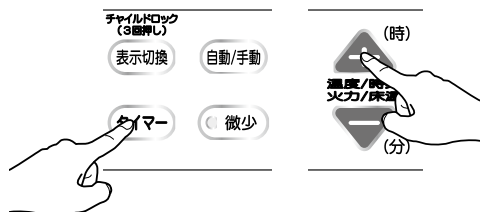
- 本製品には点検時期お知らせ機能（タイムスタンプ）が搭載されています。
- ストーブの使用時間が設計標準使用期間8年相当（20,000時間）になったら、表示部にBBを表示して点検時期をお知らせします。
- 経年劣化による重大事故を防止するために、忘れずに法定点検（有料）を依頼してください。詳しくは取扱説明書と同封されているちらし「お客様へ 大切なお知らせです。必ずお読みください。」をご覧ください。
- 弊社 点検受付窓口（TEL0120-665-785）にご連絡してください。点検のご案内をさせていただきます。
・受付時間9：00～17：00（土・日・祝日、夏期休暇・年末年始など弊社の休日を除く）
- 故障ではありませんのでご使用できます。

ご注意

- 使用状況によっては点検時期お知らせ機能（タイムスタンプ）による点検時期お知らせ表示が設計標準使用期間8年より早く表示することがあります。
- 点検後は使用時間が3年相当（7,500時間）の使用期間ごとにBBを表示して、点検時期をお知らせします。安全に製品を使用していただくため、BBを表示した場合は、法定点検に準じた点検（有料）を受けることをおすすめします。

- 点検を受けていただくまでの間、表示部のBBを表示しないようにできます。

弊社 点検受付窓口にご連絡してから次のように操作してください。



1. 運転ボタンを押して「入」にしてください。
●約3分ごとにBB表示が10秒間点滅します。
2. 温度設定ボタンの▲を押しながら「タイマーボタン」を5秒間押し続けてください。
●表示部がBBから--に切り換わり、点検時期お知らせ表示BBを表示しなくなります。

- 点検を受けずにご使用になった場合、上記操作後1年相当（2,500時間）になると再度BBを表示します。

6 安全装置

このストーブには次のような安全装置がついています。安全装置が作動して消火した場合は、ストーブと周囲の点検、処置を行ってください。すべての安全装置は、異常が取り除かれても再度点検操作をしなければ運転は停止したままです。また、すべての処置は必ず、ストーブが消火し本体温度が十分下がってから行ってください。

安全装置	原因・作動結果	処置方法
燃焼制御装置 点火安全装置 ●フレームロッド [E1表示・E2表示] (途中消火) (不着火)	●途中消火をしたとき ●点火ミスをしたとき ↓ ・自己診断モニタ [E1] 表示または [E2] 表示 ・ストーブの運転を停止	●油タンクの送油バルブが閉じられていないか確認してください。 ●ゴム製送油管につぶれや空気だまりがないか確認してください。 ●給排気筒トップが閉そくしてないか確認してください。 ●定油面器の安全装置が作動していないか確認してください。 ●お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。
対震自動消火装置 (E3 表示)	●強い地震（震度約5以上）や衝撃を受けたとき ↓ ・自己診断モニタ [E3] 表示 ・ストーブの運転を停止	●ストーブの周辺や給気ホース・排気管の外れ、油漏れなどの異常がないことを確認してから点火操作をしてください。（対震自動消火装置は自動的にセットされます。）
過熱防止装置 ●過熱防止サーモスタット(右) ※●過熱防止サーモスタット(左) ●サーモスタット (E4 表示)	●フィルタやストーブの前面がふさがったとき ●ストーブの前面に障害物などがあるとき ●熱交換器が異常に熱くなったとき ↓ ・自己診断モニタ [E4] 表示 ・ストーブの運転を停止	●フィルタの掃除をしてください。（21ページ参照） ●ストーブ周囲の障害物を取り除いてください。 ●お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。
停電安全装置 [EE表示・E9表示] (30秒以上) (5秒以上 30秒未満)	●停電したとき ●電源プラグが抜けたとき ↓ ・通電後自己診断モニタ [EE] 表示または [E9] 表示 ・ストーブの運転を停止	● [EE] の場合、チャイルドロックを解除してから時計などのセットをし、点火操作をしてください。 ● [E9] の場合、通電後再点火操作をしてください。 ●電源プラグを確認してください。
不完全燃焼防止装置 ●ガスセンサー (HL 点滅表示) 連続不完全燃焼通知機能 (HH 点滅表示) 再点火防止機能 (HH 点灯表示)	●排気が室内に漏れ不完全燃焼防止装置が働いたとき ↓ ・自己診断モニタ [HL] 点滅表示 ・自動的に消火 ●不完全燃焼防止装置が連続して4回作動し、「連続不完全燃焼通知機能」が働いたとき ↓ ・自己診断モニタ [HH] 点滅表示 ・自動的に消火 ●さらに不完全燃焼防止装置（不完全燃焼通知機能）が連続して3回作動し、再点火防止機能が働いたとき ↓ ・自己診断モニタ [HH] 点灯表示 ・自動的に消火 ・再点火できません。	●部屋の換気を十分にしてください。 ●排気管が外れていないか、他の燃焼機器の影響を受けていないか確認してください。 ●部屋の換気を十分にしてお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。

注) ※印は (UH-Fタイプ) のみ対象です。

7 その他の装置

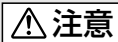
装置の名称	原因・作動結果	処置方法
<p>排気管抜け検知装置 (E5 表示)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●排気管の接続部が外れたとき ●排気管抜け検知用リード線が外れたり、断線したとき ●ストッパーリングが正しく取り付けられていないとき <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断モニタ[E5]表示 ・ストーブの運転を停止 	<ul style="list-style-type: none"> ●給排気筒および排気管の接続部に、外れ・ゆるみがないか確認してください。 ●排気管抜け検知用リード線のゆるみまたは、外れ・切れがないか確認してください。  <ul style="list-style-type: none"> ●ストッパーリングが正しく取り付けられているか確認してください。 ●お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。
<p>燃焼用送風機異常検出装置 (ER 表示)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●回転数が異常に低下したとき <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断モニタ[ER]表示 ・ストーブの運転を停止 	<ul style="list-style-type: none"> ●お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。
<p>対流用送風機異常検出装置 (Ed 表示)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●回転数が異常に低下したとき <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断モニタ[Ed]表示 ・ストーブの運転を停止 	<ul style="list-style-type: none"> ●お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。
<p>異常温度検知装置 (表示サーミスタ) (EH 表示)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●フィルタやストーブの前面がふさがったとき ●ストーブの前面に障害物などがあるとき <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断モニタ[Eh]表示 ・ストーブの運転を停止 	<ul style="list-style-type: none"> ●フィルタの掃除をしてください。(21ページ参照) ●ストーブ周囲の障害物を取り除いてください。 ●お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。
<p>※ 循環水過昇防止装置 (熱交サーミスタ) (F1 表示)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●循環液が減少したとき ●循環液が循環しないとき <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断モニタ[F1]表示 ・ストーブの運転を停止 	<ul style="list-style-type: none"> ●床暖房専用補充液を補給する等により循環液過昇原因を取り除いてください。 ●床暖房専用補充液を補給する場合は、22ページを参照してください。 ●お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。
<p>過電流防止装置 (表示部全消灯)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●内部配線のショートにより過電流が流れたとき <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電流ヒューズが切れ、すべての運転を停止 	<ul style="list-style-type: none"> ●お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。
<p>※ サポートヒータ過熱防止装置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●循環液が極端に減少したとき ●循環液が循環しないとき <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポートヒータへの通電を停止(温度が下がると自動的に通電を再開) 	<ul style="list-style-type: none"> ●運転を一旦停止して、日常の点検・手入れ(22ページ)をしてください。 ●お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に修理を依頼してください。

注) ※印は (UH-Fタイプ) のみ対象です。

日常の点検・手入れ

点検・手入れのときの注意

点検・手入れは消火後、ストーブが十分冷えてから必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

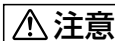


注意

- 故障・破損したら、使用しないでください。不完全な修理は危険です。
 - 定期的(2年に1回程度)に点検・整備を受けてください。
- 点検を受けずに長期間使用し続けると、故障や事故の原因になり危険です。

点検・手入れの必要項目、時期、方法

■周囲の可燃物（使用ごと）



注意

カーテン・布団や毛布など燃えやすいもののそばなどで使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。

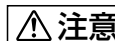
■ほこり（使用ごと）

- ストーブにほこりが付いた状態で運転をしないでください。
 - ストーブ外観のほこりや汚れは乾いたやわらかい布などできれいにふきとってください。
- ベンジン・シンナーなど揮発性の物は使用しないでください。塗装がはがれたり、樹脂が変形します。

■油漏れ・油のたまり・油のにじみ（使用ごと）

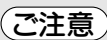
- 置台・油タンクに油漏れ・油のたまりや油のにじみがないか、点検してください。
- また、給油の際にこぼれた灯油はよくふきとってください。
- 油漏れがある場合は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼してください。

■ゴム製送油管の点検・交換のめやす（シーズンの初め）



注意

油タンクやゴム製送油管・接合部・給油コックおよびストーブなどからの灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。



ご注意

ゴム製送油管は、屋外で使用しないでください。屋外での使用は禁止されています。ゴム製送油管を少し曲げてひび割れや亀裂があった場合は交換してください。ゴム製送油管は時間と共に劣化しますので、ひび割れや亀裂などがなくても3年に1度は新しいものに交換されることをお奨めします。交換しないと灯油の漏れにつながり、火災のおそれがあります。

■油タンク（シーズンの初め、適時）

- 油タンク内に水やごみがたまっていないか点検してください。
- 油タンク内の水抜きおよび掃除は、油タンク付属の取扱説明書に従って行ってください。

■給排気筒接続部のゆるみおよびトップ周囲の点検（使用ごと）



警告

給排気筒(管・ホース)が外れたまま使用しないでください。外れていると運転中に排ガスが漏れて、危険です。



警告

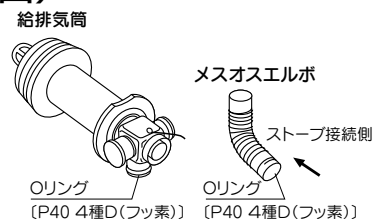
積雪が多いときには、給排気筒トップの周りが雪でふさがれていないことを確認してください。

- 除雪は、給排気筒トップの周囲を常に30cm以上あけて、風がよどまないようにしてください。
- 積雪や屋根から落ちた雪やつららにより、給排気筒トップがふさがれると燃焼不良の原因になります。閉そくすると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

- 給排気筒およびトップの周囲に障害物が置いてないか、ときどき点検し、障害物が置いてある場合は、移動してください。障害物が置いてあると排ガスを給気しやすくなり、不完全燃焼や、運転が停止する原因になります。

■給排気筒接続部のゆるみおよびトップの周囲（1シーズン1～2回）

- 給排気筒がつまると、不完全燃焼をおこします。
- シーズン初めには必ず点検し、くもが巣をつくったり異物が入ったりしているときは、必ず掃除してください。
- 給排気筒および排気管の接続部が外れたり、排気管抜け検知用リード線が外れたり、断線していないか点検してください。



- 給排気筒を再び取り付けるとき、排気管の接続内部にはめこんであるOリングが破損していないか確かめてください。
- 破損していた場合は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて交換を依頼してください。
- 掃除するときなどは給排気筒トップにホースなどで直接水をかけないでください。ストーブ内に水が入ると故障の原因になります。

■給気ホース・排気管の点検（シーズンの初め、適時）

- 給気ホース・排気管の接続部が外れていないか点検してください。
- 給気ホースが排気管にあたっていないかを点検してください。

■結露水の処理（適時） お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご依頼してください。

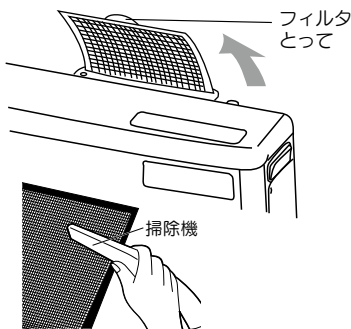
- 給排気筒トップより結露水がたれることがあります。異常ではありません。
- 排気管に結露水がたまった場合は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご依頼してください。

■定油面器のストレーナの掃除と水抜き（1シーズン1~2回） お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご依頼してください。

- 定油面器には、ごみを除くためのストレーナがついています。
水やごみがたまると灯油の流れを妨げて、十分な火力が出なくなる場合や灯油が漏れるおそれがあります。
1シーズンに1~2回（シーズン初めなど）には、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご依頼してください。

■対流用送風機のフィルタの掃除（週に1回以上）

- フィルタがごみやほこりで目づまりすると、送風力が弱くなり排気温度やストーブの表面温度が上昇する原因になります。〔過熱防止装置または表示サーミスタの働きで運転が停止する場合があります。〕
運転が停止し、対流用送風機が止まっていることを確認してから次の要領でストーブ裏面のフィルタの掃除を行ってください。



- 1.左図のようにフィルタのとつてをつまんで矢印のようにフィルタを上へ引き出し、ストーブ背面から取り外してください。
- 2.フィルタに付着したほこりを掃除機で吸い取ってください。
- 3.掃除が終わったら、もとどおりに取り付けてください。

⚠ 注意 フィルタを外したまま運転しないでください。

対流用送風機のフィルタを外した状態で運転すると、カーテンなどを巻き込んで火災になるおそれがあります。また手などをふれるとけがをするおそれがあります。

■地震などの災害が発生したときの点検について

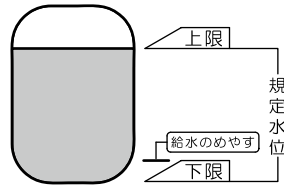
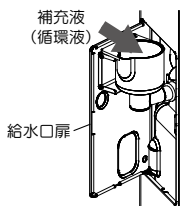
- 地震などの災害が発生し、ストーブに振動や衝撃が加わったときは、運転前に必ず次の点検を行ってください。
 - ・給排気筒まわりの外れ、漏れの確認
 - ・ストーブの損傷点検
 - ・灯油配管からの漏れ確認
- 点検で異常が見つかった場合は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご依頼してください。

■床暖房専用補充液の補給（適時）（UH-Fタイプ）

- シスターンタンク内の循環液は、少しずつ蒸発します。ときどき水位を確認して循環液が不足している場合は、給水口扉を開き規定水位の上限まで床暖房専用補充液を補給してください。補給を行わないと循環液の不足により熱交サーミスタ温度異常（F1表示）で運転が停止します。

- 循環液の不足により熱交サーミスタ温度異常（F1表示）が出た場合、温水配管内にエアが入り、循環液が循環しないことがあります。下記の手順でエア抜きを行ってください。
 - ①ストーブが完全に停止してから床暖房専用補充液を規定水位の上限まで補給してください。
 - ②床暖ボタンと床温調節ボタンを同時に5秒間押し続けてください。
 - ・循環ポンプが運転を開始し、エア抜きを行います。
 - 約5分間循環ポンプを運転すると、エア抜きが完了します。
 - ③床暖ボタンを押してください。
 - ・循環ポンプが停止します。

再運転の際、「ジュー」という循環液の蒸発音が発生することがありますが、異常ではありません。また、再度熱交サーミスタ温度異常（F1表示）が出た場合はもう一度上記①～③の手順を行ってください。



ご注意 床暖房専用補充液は「上限」より多く補給しないでください。使用中に循環液があふれることがあります。

- コロナ純正床暖房用循環液は、凍結予防の他に床暖房に使用される機器（ストーブ・床暖パネル・配管部品など）の防錆効果を目的に作られた循環液です。循環液はすでに純水で適正な濃度に調合してありますので試運転時にはこのままストーブに入れてください。
- 他社銘柄の防錆剤、不凍液（特に車両用など）を使用したり、混合したりすると防錆効果が発揮されず機器の耐久性がそこなわれたり、粘度があわずポンプの性能が十分発揮されずに沸騰してしまうことがあります。
- 循環液は、常温では引火しませんが、加熱されたストーブの上などにかかると着火することがありますので取り扱いには十分注意してください。
- 循環液は3年をめやすに入れかえてください。（開封した循環液も含む）
循環液の入れかえはお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口に依頼してください。
- 循環液の凍結温度は、 -20°C に調合されています。

■温水配管の点検・交換のめやす（シーズンの初め、適時）（UH-Fタイプ）

- ストーブ内部や温水配管接続部分から水漏れがないことを確認してください。
- パッキンチューブは経年変化しますので手で少し曲げ、ひび割れがないか点検し、ひび割れがあるときは交換してください。交換のめやすは3年に1度です。交換はお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。

9 定期点検

長期間ご使用になりますと、ストーブの点検が必要です。

2シーズンに1回程度、シーズン終了後などに、点検を実施してください。点検のご相談は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口もしくは修理資格者〔一般財団法人 日本石油燃焼機器保守協会（TEL03-3499-2928）で行う技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など〕のいる店にご相談ください。

愛情点検



長年ご使用の密閉式石油ストーブの点検をぜひ！

こんな症状はありませんか

- 油漏れがする。
- 強い臭いがする。
- 運転中に異常な音がする。
- その他の異常や故障がある。

ご使用中止

故障や事故の防止のため必ずお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。点検・修理についてのご費用など詳しいことはお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。

10 故障・異常の見分け方と処置方法

■次のような現象は故障ではありません。

●修理を依頼される前にもう一度お確かめください。

現象		説明
点火時・消火時	初めて使用するときやシーズンの初めに煙やにおいがでる。	耐熱塗料やほこりが焼けるためです。しばらく窓をあけて換気をしてください。
	1回で着火しない。(放電音が繰り返し鳴る)	異常ではありません。
	燃焼開始時、火力調節時および消火時に「ピチピチ」や「カンカン」という音がする。	本体内部が熱により膨張、収縮するためです。
	点火時にボンと音がする。	点火するときに発生する着火音で、異常ではありません。
	ストーブ本体から水が蒸発する「ジュツ」という音がする。	結露水が熱交換器内部で蒸発する為です。異常ではありません。
	「ブーン」と音がする。	モータの運転音で異常ではありません。
	運転開始時、「カッチカッチ」という音がする。	製品の機能上(リレー音)であり異常ではありません。

■使用中に異常があったら、次表により原因を調べて処置をしてください。

●原因のわからないときや、処置のむずかしいときは、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。

※印の現象・原因は (UH-Fタイプ) のみ対象です。

原因	現象														
	E1	E2	E3	E4	E5	EE	EE	EH	F	IHE	HC	HH	HH	P1	
	(途中消火)	(点火しない)	(対震作動)	(過熱防止装置作動)	(排気管抜け検知作動)	(停電) E9 (停電)	(疑似火災)	(機内表示サーミスタ) (温度異常作動)	(熱交サーミスタ) (温度異常)	(不完全燃焼防止装置検知部異常)	(不完全燃焼防止装置作動)	(不完全燃焼防止装置検知部異常)	(連続不完全燃焼通知機能作動)	(再点火防止機能作動)	(ポット予熱不足)
電源プラグをコンセントに差し込んでいない															
強い地震があった。または、ストーブに衝撃を与えた			●												
送油バルブが閉じている	●	●													
定油面器の安全装置が作動している	●	●													
ゴム製送油管に空気だまりがある	●	●													
ゴム製送油管が折れていて、灯油が流れにくい	●	●													
定油面器に水、ごみが入っている	●	●													
給排気筒の設置が基準通りでない。排気管が長すぎる															
対流用送風機のフィルタにほこりがたまった				●					●						
給排気筒の工事が不適当のため排気ガスを吸い込んでいる	●														
ルームサーモの取り付け位置が悪い															
給排気筒トップの先端がおおわれている	●														
油漏れがある															
給排気筒接続部が外れている。 排気管抜け検知用リード線端子接続がゆるんでいる					●										
フレームロッドにすすが多量に付着した	●								●						
循環ポンプが故障している ※										●					
循環液が不足している ※										●					
温水配管がつぶれている。温水ジョイントのコックが閉じている ※										●					
長時間停電があった(30秒以上-EF表示)						●									
停電があった(1秒以上30秒未満-E9表示)						●									
電源電圧(AC100V)が低くなっている															●
不完全燃焼防止装置が故障している											●				
室内に排気ガスが漏れた												●	●	●	
バックアップ用電池の寿命															

	現 象	説 明
燃焼時・その他	炎の一部が揺らぐ。青炎の中に黄色い炎(赤火)が混じる。	異常ではありません。
	給排気筒の先端から連続的に白煙が出る。	外気温が低くなると、排気ガス中に含まれている水分が凝結して水蒸気になるため、異常燃焼による白煙ではありません。
	灯油ぎれの際、一瞬炎が大きくなって消火する。	異常ではありません。
	タイマー運転中に表示部の表示が暗い。	異常ではありません。
	「コトコト」音ができる。	電磁ポンプの運転音で異常ではありません。
	前面ガードがすこし曲がる。	前面ガードの一部が熱により膨張するためです。
	ストーブの背面がうすく光る。	スケルトンのひかりが隙間から漏れるため異常ではありません。
	eco(エコ)運転中に消火する。 (「eco」表示が点灯している)	室温調節のため消火しました。 11~12ページの「eco(エコ)運転」を参照してください。
表示部に BB が表示される。 点検時期お知らせ機能(タイムスタンプ)作動	ストーブの点検時期になりました。17ページの「 ■BB 表示 点検時期お知らせ機能について」を参照してください。	

●次のような現象のときは使用を中止し、油タンクの送油バルブを閉じてお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。

現 象	説 明
置台に灯油が漏れている。	ゴム製送油管の締付バンドが締まっていない。

★表示部に自己診断モニタが表示されます。

P2 (ボット温度低下)	処 置 方 法												
	炎が大きくならない	黒煙を出して燃える	ガラス円筒がすすける	音をたてて燃える	灯油のおいがする	爆発的な燃焼をする	電源が入らない	室温が低いのに火が大きくならない	あたたまらない※	床暖パネルが※	沸騰音がする※	振動が大きい※	電源プラグを差し直す時時刻表示が「--」と表示する
						●							コンセントに確実に差し込む
													ストーブの周辺や給気ホース・排気管の外れ、油漏れなどの異常がないことを確認してから点火操作をする。
													送油バルブを開く
													定油面器リセットボタン(赤色)を押す
	●												空気抜きをする(7ページ参照)
	●												ゴム製送油管の折れを直す
	●												お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼する
		●	●										お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼する
													フィルタのほこりを掃除する
		●	●	●		●							お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼する
							●						適正な位置に取り付け直す
		●	●	●									おおっているものを取り除く
					●								お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼する
													お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼する
									●	●	●		お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼する
									●				規定水位の上限まで補充液を入れる(22ページ参照)
									●	●	●		温水配管のつぶれを直す。温水ジョイントのコックを開く
													設定温度、時刻などをセットしてから点火操作する
													リセットしてから点火操作する
●													△注意 「電気配線の確認」(8ページ参照)の内容を点検する
													お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼する
													直ちに部屋の換気をする。 「不完全燃焼防止装置」(18ページ参照)の内容を点検する
												●	お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にて修理を依頼する。電池がなくなってもバックアップ機能はがたらないだけで、現在時刻を合わせれば通常どおり使用できます。

11 部品交換のしかた

■部品交換のときの注意

ご注意

不完全な修理、調整は危険ですので、部品の交換、調整が必要な場合には、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口もしくは、修理資格者〔一般財団法人 日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など〕のいる販売店にご相談ください。

部品交換は **コロナ純正部品** とご指定ください。

●コロナ純正でない部品を使用の場合には、本体の機能が損なわれたり、事故や故障の原因となります。また、保証期間内であっても本体の保証が受けられません。

消耗・劣化しやすい部品（交換が必要な部品）

項目	内容
使用期間により交換が必要な部品	バーナヘッド・バーナヘッドリング・スケルトン・点火プラグ・フレームロッド・ガラス円筒・パッキン類およびOリング(メンテナンス時分解した場合は必ず交換が必要です。)・排気管接続用Oリング[P40 4種D(フッ素)]
環境により劣化しやすい部品	給排気筒系部品・各種制御基板・燃焼用送風機・ガスセンサー ゴム製送油管・対流用送風機・イグナイタ
変質・不純灯油の使用により劣化しやすい部品	ポットバーナ・電磁ポンプ・定油面器・フレームロッド

12 保管（長期間使用しない場合）

シーズン終了時などの長期間使用しないときは、日常の点検・手入れの項(20～22ページ)を参照し、次の要領で保管してください。

1. 電源プラグをコンセントから抜いてください。

△注意 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

2. 油タンクの送油バルブを閉じてください。

3. フィルタの掃除をしてください。（21ページ参照）

4. 本体のごみやほこりを取ってください。

●掃除機などでごみやほこりを取り除いてください。

5. しめらせた布で本体の汚れを落としてから、からぶきしてください。

●ベンジン、シンナーなど揮発性の物は使用しないでください。塗装がはがれたり、樹脂が変形します。

6. ストーブは据付けたまま保管してください

●床暖の配管を接続したままで保管する場合は、上限水位まで補給しておいてください。 **UHFタイプ**

●どうしても取り外して保管されるときは、ポリ袋をかぶせ、乾燥した場所に横倒しにしないようおしまいください。

●次シーズンに据付けるときには、必ずお買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご依頼してください。

13 仕様

仕様

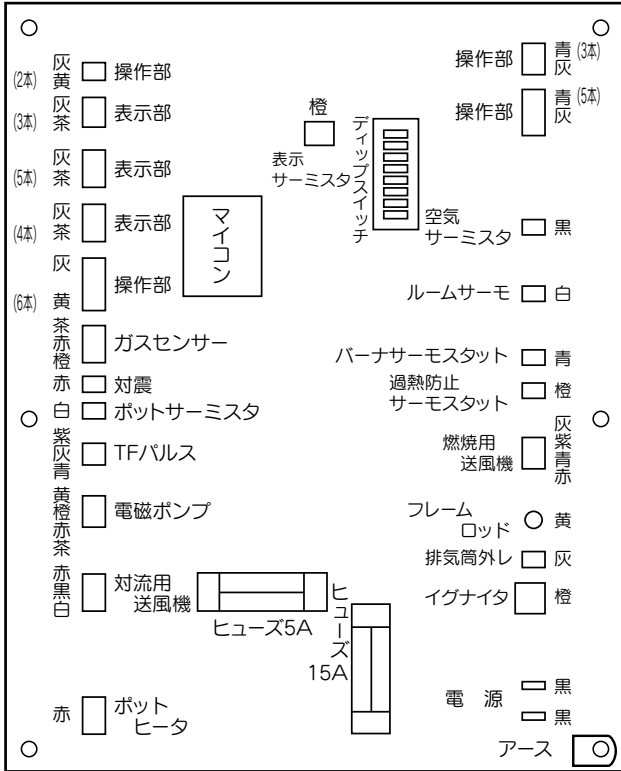
型式の呼び		UH-FSG7019K(基本型式UH-FSG7014K)		FF-SG6819K(基本型式FF-SG6811K)	
種類		気化式・強制給排気形・強制対流形・※床暖房用			
点火方式		電気点火式			
使用燃料		灯油(JIS1号灯油)			
燃焼状態		最大	最小	最大	最小
燃料消費量	床暖房運転	8.03kW(0.780L/h)	2.26kW(0.220L/h)		
	ストーブ単独運転	7.88kW(0.766L/h)	2.26kW(0.220L/h)	7.88kW(0.766L/h)	2.26kW(0.220L/h)
発熱量	床暖房運転	28,890kJ/h	8,150kJ/h		
	ストーブ単独運転	28,370kJ/h	8,150kJ/h	28,370kJ/h	8,150kJ/h
熱効率	床暖房運転	86.6%	87.5%		
	ストーブ単独運転	86.0%	87.5%	86.0%	87.5%
暖房出力	床暖房運転	6.95kW 循環水量 150L/h (1回路時) 循環水量 180L/h (2回路時)(別売品使用)	1.98kW 循環水量 100L/h (1回路時・ 2回路時)		
	ストーブ単独運転	6.78kW	1.98kW	6.78kW	1.98kW
最大床暖房出力(床暖房運転)		1.51kW 循環水量 150L/h(1回路時) 循環水量 180L/h(2回路時)(別売品使用)			
サポートヒータ出力(サポートヒータ運転)		0.500kW 循環水量100L/h			
暖房のめやす	床暖房運転	温暖地	木造29.5m ² (18畳)まで コンクリート41.5m ² (25畳)まで		
	ストーブ単独運転	寒冷地	木造29.5m ² (18畳)まで コンクリート48.0m ² (29畳)まで		
	床暖房運転	温暖地	木造29.5m ² (18畳)まで コンクリート39.5m ² (24畳)まで		
		寒冷地	木造29.5m ² (18畳)まで コンクリート46.0m ² (28畳)まで		
本体水容量		2L(器具内蔵シスターン上限水位時)			
床暖房用熱交換器の最高使用圧力		シスターン大気開放			
外形寸法		高さ600mm 幅696mm 奥行337mm(置台を含む)			
質量		30.0kg		23.0kg	
電源電圧及び周波数		100V 50/60Hz			
定格消費電力	床暖房運転	最大消費電力 880/880W(点火時) 燃焼時消費電力 59/ 69W			
	ストーブ単独運転	最大消費電力 860/860W(点火時) 燃焼時消費電力 34/39W		最大消費電力 860/860W(点火時) 燃焼時消費電力 34/39W	
	サポートヒータ運転	最大運転時 625/625W			
待機時消費電力		1.0W			
床パネルの接続面積	床暖房運転	4.5~16.5m ² (3畳~10畳)(最大燃焼時)			
	サポートヒータ運転	4.5m ² (3畳)			
温水配管接続口		外径φ8mmニップル			
給排気筒の型式の呼び		QU40-7		QU40-5	
給排気筒の呼び径		D40			
給排気筒の壁貫通部の孔径		φ75mm			
排気温度	床暖房運転	260℃以下			
	ストーブ単独運転	260℃以下			
電流ヒューズ		5A・15A			
安全装置		対震自動消火装置・点火安全装置・燃焼制御装置 停電安全装置・過熱防止装置・不完全燃焼防止装置			
その他の装置		排気管抜け検知装置・燃焼用送風機異常検出装置・対流用送風機異常検出装置 過電流防止装置・※サポートヒータ過熱防止装置・※循環水過昇防止装置・異常温度検知装置			
付属品		給排気筒セット1組・※バックチューブ2.5m・遮熱板1個 本体固定金具B1個・ゴム製送油管締付バンド2個・スリーブ1個・取扱説明書・工事説明書・所有者票			

注)※印は (UH-Fタイプ) のみ対象です。

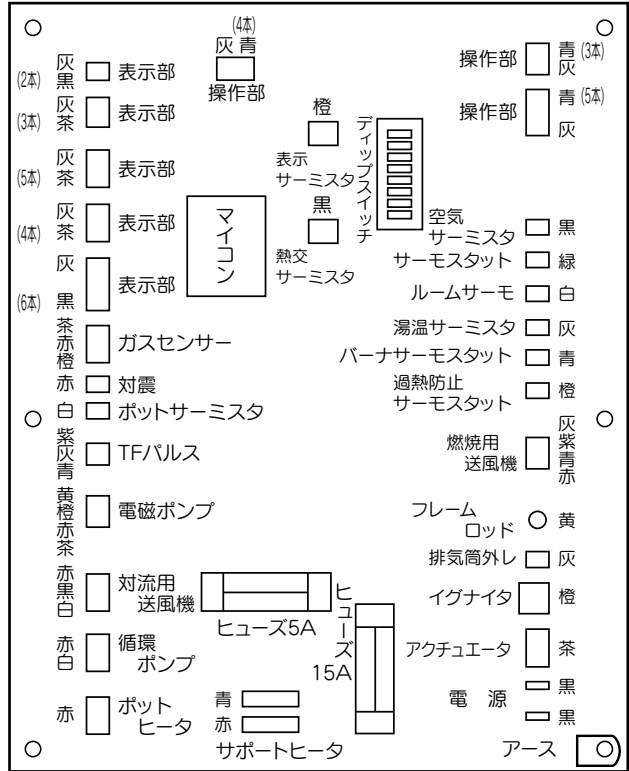
備考 暖房のめやすは、一般社団法人・日本ガス石油機器工業会の算定基準によります。

プリント配線板 端子配置図

FFタイプ



UH-Fタイプ



14 アフターサービス

■保証について

- このコロナ密閉式石油ストーブには保証書が付いています。(裏表紙に印刷されています) 保証書は、必ず「お買いあげ日、販売店名」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。
- 保証期間はお買いあげいただいた日から3年間です。
- 次のような原因による故障および、事故につきましては、保証の対象になりませんので注意してください。
 - 変質灯油や不純灯油などの不良灯油、また灯油以外の燃料使用による故障や事故。
 - 誤った使用方法による故障や事故。

■修理を依頼されるとき

- 「故障・異常の見分け方と処置方法」(23・24ページ)の項にしたがってお調べください。直らないときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご連絡ください。
- ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
 - ①品名 ②型式の呼び ③お買いあげ日 ④故障の状況(出来るだけ具体的に)⑤ご住所・お名前・電話番号
 - 品名と型式はストーブに向かって右側面に表示してあります。
- 修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証期間中であれば保証書の規定に従って無料修理させていただきます。
- ご不明な点や修理に関するご相談は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にお問い合わせください。

■保証期間が過ぎているときは

- お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口にご相談ください。修理によって使用できる製品についてはお客様のご要望により有料修理いたします。

■補修用性能部品の保有期間

- 石油ストーブの補修用性能部品(機能を維持するために必要な部品)の保有期間は製造打ち切り後7年です。

15 据付け・移設

据付け・移設工事は販売店に依頼する

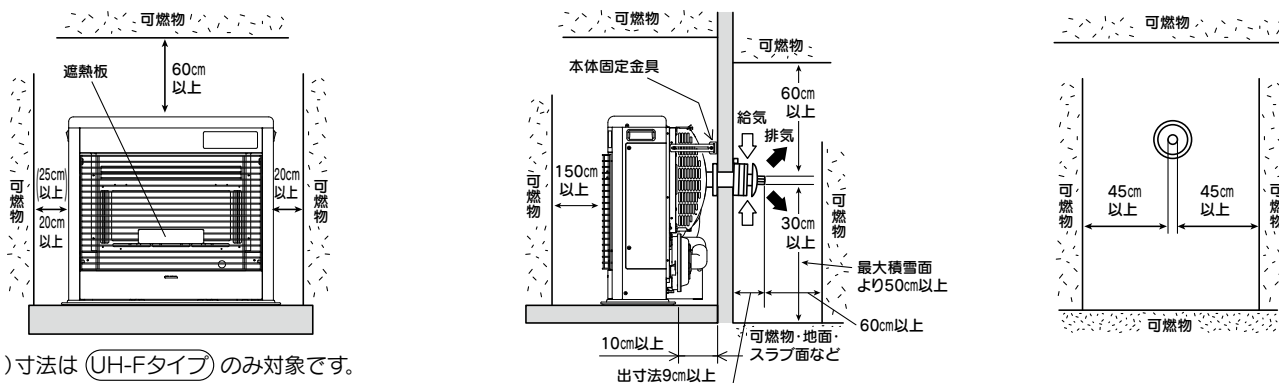
据付けや移設工事は販売店または据付け業者に依頼し、お客様ご自身では行わないでください。

据付け場所の選定及び標準据付け例

据付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準があります。工事説明書の「特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）」をお読みになり、販売店または据付け業者とよくご相談してください。また、「標準据付け例」については、下図を参照してください。

標準据付け例

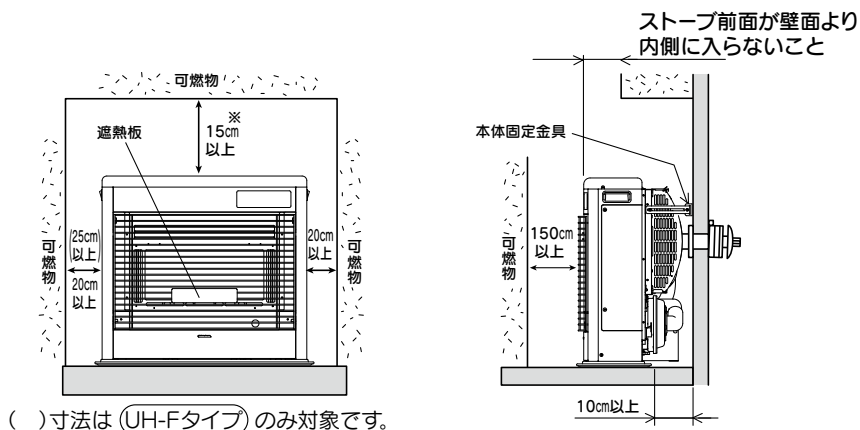
ストーブの据付けは下図を満足させる位置に取り付けてください。



() 寸法は (UH-Fタイプ) のみ対象です。

- 側方障害物は、両側にあってもよいですが給排気筒と障害物、可燃物との距離は45cm以上とってください。
- 前方に扉や建物がある場合は給排気筒先端と前方障害物との距離は60cm以上離し、かつ上方および両側方に気流を阻止する障害物がないようにしてください。
- 給排気筒下面は地面から30cm以上離すようにしてください。
なお積雪地域では、給排気筒先端が雪でふさがれるおそれのない高さを確保してください。
- 雪の多い地方では、最高積雪面より50cm以上離れる場所に、給排気筒を取り付けてください。

[マントルピースなどに設置する場合のストーブ周囲寸法]



() 寸法は (UH-Fタイプ) のみ対象です。

ご注意

防火性能認証品ですので※印の寸法で設置できます。

- テレビやラジオから1m以上離してください。(テレビやラジオに雑音が入るおそれがあります。)
- 点検・手入れのためストーブ左右の離隔距離は、左側25cm以上、右側20cm以上にしてください。
- 熱に弱いカーペットや床の上で長時間使用すると、変色したり、そり返ることがあります。
- 木造の建物で壁にメタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りをしている場所に給排気筒を通すときは、それらの金属部に接しないように電氣的絶縁をしてください。
- 壁に穴をあける場合、壁の内部にある電気配線・ガス・水道の配管にあたらぬ場所を選んでください。
- 上図では可燃物までの離隔距離を示していますが、保守点検や性能維持のため、不燃物などの場合も上図離隔距離をとってください。

給排気筒を延長する場合の注意

- 給排気筒を延長する場合は、3m3曲がり以下で取り付けられる場所を選定してください。
- 標高1300m～1500mで使用する場合は、1m3曲がり以下で取り付けられる場所を選定してください。

積雪地区における注意

- 給排気筒トップが雪でふさがれない場所に設置してください。
落雪により給排気筒トップがふさがれたり破損するおそれのある場所には設置しないでください。
また、風がよどむような場所では、排ガスを再度吸い込んで異常燃焼を起こすことがあります。

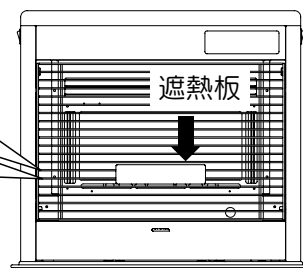
据付け後の確認

据付けが終わりましたら、もう一度、工事説明書の「特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）」をお読みになり、工事説明書に記載されているとおり据付けられているかどうかを確認してください。

遮熱板の取付方法

- 遮熱板はストーブ前面の床面の温度上昇を防ぐものです。
熱に弱いカーペットや床の上で長時間使用すると、変色したりそり返ることがあります。
床面の温度上昇が気になる場合、下図のように遮熱板を前面ガードに取り付けてください。

前面ガードの横ロッドの下から6本目と7本目にまたがるように取り付けてください。

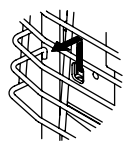


●遮熱板の取付方法

1. 前面ガードを取り外します。

- 前面ガードの取り付け・取り外しの際は、ストーブにキズ等を付けないよう注意してください。
- 前面ガードは★印部の上下左右4ヶ所で固定されています。
取り外しは、下記のように行ってください。
(取付けは逆の手順となります)

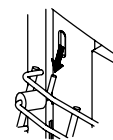
①前面ガードを持ち上げて、左右下側の取付け部分のロッドを手前に引き出します。



ご注意

取付け部分のロッドを引き出す際、手前に引き出し過ぎると前面ガード上部でストーブを傷つける場合があります。注意してください。

②そのまま前面ガードを下げて、左右上側の取付け部分のロッドを引き抜きます。



※取付けの際は4ヶ所の取付け部分のロッドを確実に取付け穴に差し込んでください。

2. 遮熱板を取り付けます。

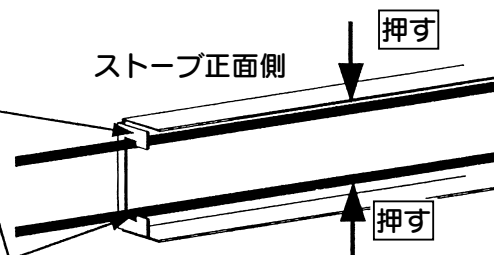
取り付けるロッドの位置（下から6本目と7本目）と中心を確認し、ロッドを少し押しながら遮熱板をはめ込みます。
ほうろう加工を痛めますので、ロッドの押し過ぎに注意してください。

ミゾに入っていることを確認する

ストーブ正面側

押す

押す



3. 前面ガードを取り付けます。

外した時とは逆の手順で、ロッド上側から差し込み、持ち上げて下側を差し込みます。

- 位置を間違えますと、遮熱の効果が得られません。
正しく取り付けてください。

試運転

試運転は販売店または据付業者と一緒に必ず行ってください。

■運転準備

⚠ 注意 電源プラグをコンセントに根元まで確実に差し込んでください。(時刻表示が- [L])

●チャイルドロックボタンを3秒以内に3回押してください。(現在時刻を表示します。)

●現在時刻を確認してください。

現在時刻がずれている場合は、「現在時刻の合わせ方」(13ページ)を参照し、合わせてください。

●油タンクに給油し、送油経路の空気抜きをしてください。

「**■燃料切れの注意と空気抜きの方法**」(7ページ)を参照してください。

●送油経路やストーブから油漏れがないことを確認してください。

●定油面器をセットしてください。

「**■安全装置のセット、取扱上の注意**」(8ページ)を参照してください。

●シスターンタンク内に循環液がないときは、循環ポンプを運転させないでください。故障の原因になります。

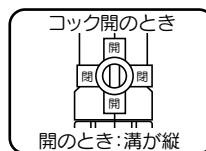
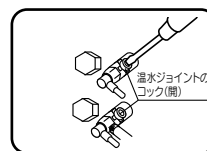
■循環液の給水方法およびエア抜き方法

UH-Fタイプ

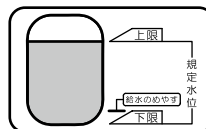
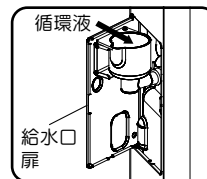
1. 器具の左背面にある行きと戻り両方の温水ジョイントのコックを「開」にしてください。

(●2回路配管の場合は、項目4、5を1回路ずつ行ってください。)

●配管途中にバルブがある場合は、バルブを全開にしてください。



2. ストーブ左側面の給水口扉を開き、水位計の規定水位(上限水位)まで循環液(コロナ床暖房用循環液)を入れてください。



3. 操作部の床暖ボタンと床温調節ボタンを同時に5秒間押し続けてください。

●循環ポンプが運転を開始します。

(表示部の設定床温表示が点滅します。)

●水漏れがあった場合は、循環ポンプを停止させてください。

床暖ボタンを押して「ストーブ単独運転」に切り換えることにより停止させることができます。

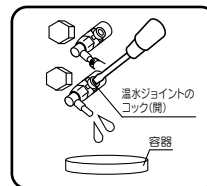


4. シスターンタンクの水位が下がるので上限水位まで循環液を給水してください。

(シスターンタンクの水位が下がらなくなるまで給水を続けてください。)

●温水配管施工などの関係で、エアが抜けきらない場合は、次の方法があります。

温水行き口のコックを「閉」にして温水配管接続をはずし、コックを開いて循環液を少しずつ流し、エアを抜く
(循環液がこぼれないように容器を用意してください。)

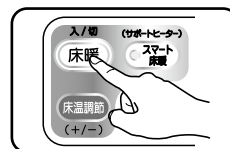


※温水配管内のエア抜きが不十分だと循環音が大きくなる事があります。
この場合は再度エア抜きを行ってください。

5. 温水配管経路に、水漏れのないことを確認してください。

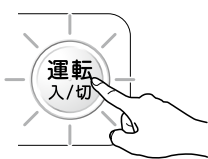
6. 水漏れのないことを確認したら完了です。操作部の床暖ボタンを押してください。

●循環ポンプが停止します。



■ 運転 ※印は(UH-Fタイプ)のみ対象です。

(UH-Fタイプ) はストーブ床暖房運転で試運転してください。



① 運転ボタンを押して「入」にしてください。

※●「床暖ボタン」を押して、ストーブ床暖房運転にする。

※●「運転中」表示が点滅します。

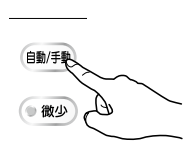
●“点火します”の音声と同時に「自動」表示が点灯し、キラリングが点灯します。
(工場出荷時は、自動運転に設定されています。)

●点火操作から着火まで約2分です。

(室温によって着火までの時間が変わることがあります。)

●着火までに異常がないことを確認してください。

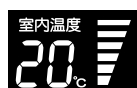
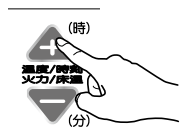
※温水配管経路に水漏れのないことを確認してください。



② 自動/手動ボタンで、自動運転から「手動」表示に切り換えてください。火力設定ボタン▲▼を押してグラフが増減し火力が変わることと炎の状態を確認してください。(各火力で1分以上確認してください。)

●炎の状態は、青い炎の中にいくらかの黄色い炎が混じっても異常ではありません。

●正常運転のためやすとして「10.故障・異常の見分け方と処置方法」(23~24ページ)のような現象のないことを確認してください。



※③ 床暖房/パネルが暖かくなることを確認してください。

④ 自動/手動ボタンで自動運転に戻してください。

■ 炎の状態

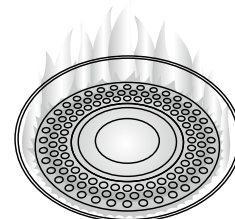
ストーブの据付けや給排気筒の設置条件で炎は多少変化します。

●炎の状態は、青い炎の中にいくらかの黄色い炎(赤火)が混じっても異常ではありません。

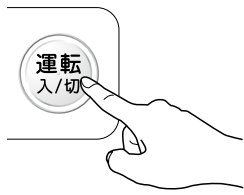
●細かい(霧状の)水滴やホコリを吸気した場合は全体的に淡いオレンジ色になることがありますが異常ではありません。

正常燃焼

青い炎の中に少し黄色い炎が混じっている



■消火の手順



運転ボタンを押して「切」にしてください。

- “消火します”の音声と同時に「運転中」表示とキラリングが消灯し、表示部は時刻表示のみになります。
- 消火後は、本体内部が冷却するまで送風を継続し、約10分後に燃焼用送風機・対流用送風機が停止し、表示部が消灯します。

お願い

- 長期間の保管後、再び設置する場合も「試運転」の手順にしたがい、試運転を行ってください。

⚠注意 初めてお使いになるときの注意

初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼き付くまで煙と臭いが出ます。しばらくの間、窓をあけて部屋の換気を行ってください。また、小鳥や小動物などに影響する場合がありますので、この間は部屋に入れしないでください。

- お部屋の窓を（給排気筒トップ取付け場所より離れた所）を少し開け、半日から1日程度「大火力」運転をしてください。

ーメ モー



お客様ご相談窓口

修理サービスや製品についてのご相談は型式名をご確認の上、お買いあげの販売店または下記の窓口にご依頼ください

電話番号やアドレスは変更する場合がありますのでご了承ください。

コロナサービスセンター（全国共通番号 365日24時間受付）

TEL フリー
 ダイヤル  **0120-919-302**

携帯電話 ナビ
PHS ダイヤル  **0570-550-992**

ナビダイヤルの通話料はお客様負担となります。

修理・アフターサービスに関するお問い合わせ

<https://www.corona.co.jp/support/service/>



■365日24時間修理依頼ができます。

部品保有年限が経過している製品は受付しないこともあります。

右記QRコードからアクセスできます。

QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

株式会社 **コロナ**

〒955-8510 新潟県三条市東新保7-7

TEL(0256) 32-2111 <代表>

ホームページ <http://www.corona.co.jp/>

コロナ 石油ストーブ保証書

型式	ご購入機種に○を付けてください。	
	FF-SG6819K	UH-FSG7019K
★お客様	お名前 様	
	ご住所 〒(-)	
	電話 () -	

本書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。
 お買いあげの日から左記期間中故障が発生した場合は、本書をご提示の上、お買いあげの販売店に修理をご依頼ください。
 ●ご販売店様へ
 お買いあげ日、貴店名、住所、電話番号をご記入の上(★印欄に記入のない場合は、無効となります)、本書をお客様へお渡しください。

★お買いあげ日	年 月 日
保証期間 対象部分 期間 (お買いあげ日より)	本 体 見 本

★販売店	住所・店名
	電話 () -

●お客様へお願い
 お手数ですが、ご住所、お名前、電話番号をわかりやすくご記入ください。
 販売店の記載がないときは、それを証明する領収書などが必要となりますので、一緒に保管してください。

《無料修理規定》

- 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った正常な使用状態で保証期間中に故障した場合には、お買いあげ販売店が無料修理致します。
- 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、お買いあげの販売店に依頼してください。なお、離島および離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
 また、本品を直接送付される場合の送料は、お客様の負担となります。
- ご転居の場合は事前にお買いあげ販売店にご相談ください。
- ご事情により、本保証書に記入してあるお買いあげ販売店に修理をご依頼できない場合には、お客様ご相談窓口（本書34ページに記載）をご覧ください。
- 次の場合には保証期間内でも有料修理となります。
 (イ) 使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
 (ロ) 取扱説明書、本体表示等によらないで使用された場合、または適切な点検・手入れを行わなかったことにより発生した不具合
 (ハ) お買いあげ後の取付場所の移動、輸送、落下等による故障および損傷
 (ニ) 火災、地震、水害、落雷、その他の天変地異、公害および、変質灯油、不純灯油、異質油(灯油以外の油又は混入)による故障および損傷
 (ホ) 業務用としての使用、車両、船舶への搭載など一般家庭用以外に使用された場合の故障および損傷
 (ヘ) 本書にお買いあげ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。通信販売などでご購入したときは、商品の送り状・領収書などの提示がない場合
 (ト) 据付け工事の不備による故障
 (チ) 本書の提示がない場合
 (リ) 点検整備、および消耗品(リング、各種パッキン類、ゴム製送油管)の交換をされる場合
 (ヌ) 定期点検の費用
- 本書は日本国内においてのみ有効です。This guarantee is valid in Japan only.
- 本書は再発行致しませんので紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。
 従ってこの保証書によって保証書を発行している者(保証責任者)、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口(本書34ページに記載)にお問合せください。
 ※保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは取扱説明書(本書27ページに記載)をご覧ください。
 ※アフターサービスや製品についてのお問い合わせは、お買いあげの販売店または、お客様ご相談窓口(本書34ページに記載)にお問い合わせください。

株式会社 **コロナ**

〒955-8510 新潟県三条市東新保7-7
 TEL(0256) 32-2111 〈代表〉
 ホームページ <http://www.corona.co.jp/>